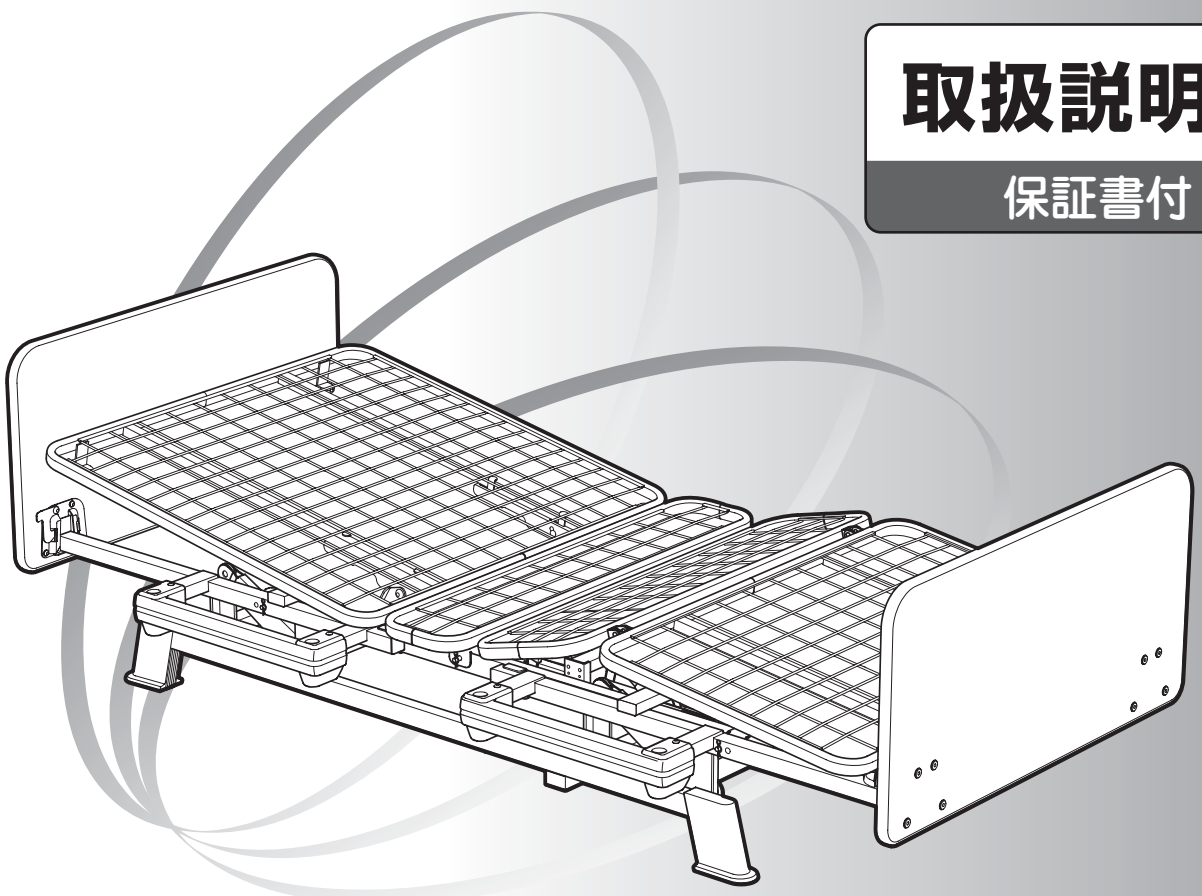
Colovekka（コロベッカ）シリーズ

電動在宅ケアベッド

CC-2200 Camellia カメリア



取扱説明書

保証書付

ベッドを正しくお使いいただくために シーホネンスからのお願い

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

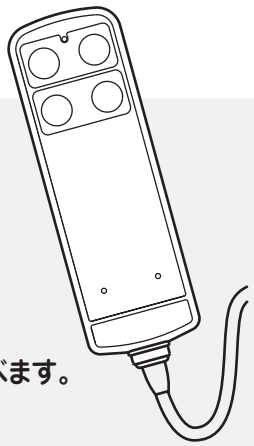
- この取扱説明書にはご使用上の注意事項や操作方法が記載されています。
- **ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになって、正しくお使いください。**
- ベッドを使用される方ばかりでなく、付き添いの方にも安全な操作方法を説明してください。
- お読みになった後も、いつでも見られる場所に大切に保管してください。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または弊社までお問合せください。

シーホネンス株式会社

ベッドの使用目的・特長

「電動在宅ケアベッドカメリア CC-2200」は、ご家庭でベッドを使用する方の動作を助けること、介護する方の介護負担を軽くすることを目的として作られたベッドです。

ベッドには主に次のような特長があります。



1. 手元スイッチ操作 でベストポジションを自在にコントロールできます。

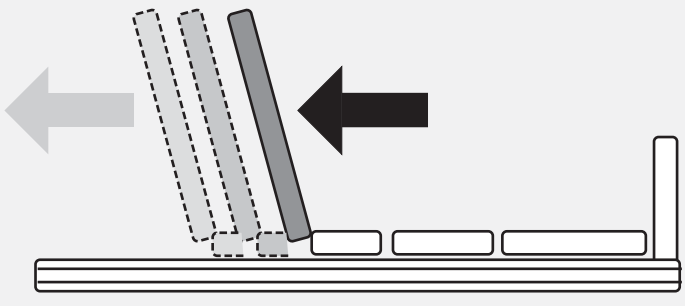
◆ボトム角度、高さ調節を無段階に調節できます。
◆2モーターの背上げ脚連動は、レバー操作により背上げのみと脚連動の2種類が選べます。
◆3モーターは、背ボトム、膝ボトムの角度と高さ調節が個別に調節できます。

2. 誤操作を防止する「ロックスイッチ」付き。

◆ベッドの誤操作を防止するためのロックスイッチが付いていますので、状況に応じて手元スイッチの操作を禁止することができます。

3. スイングバック機能 を採用しています。

◆背上げをする際、背ボトムが背上げ動作に連動して後方にスライドしながら立ち上がるため、身体への負担を軽減し、自然な座位を保つことができます。

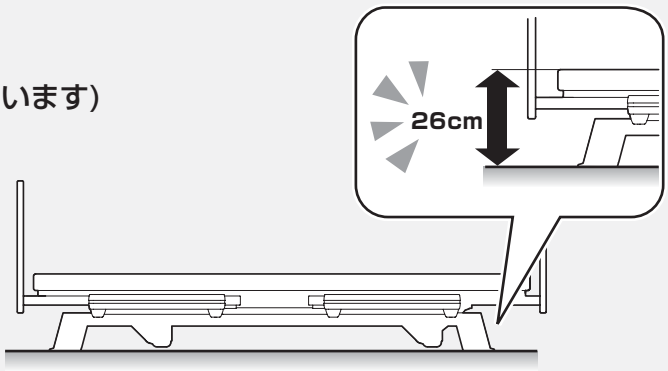


4. 低床26cm。

(ゆかからボトム上面までの高さを示しています)

◆乗り降りしやすく安定した端座位をとることができます。

◆最高床高63cmまで上がり、介護などの負担を軽減します。



5. ドイツ製 高性能リニアアクチュエータ を採用しています。

◆安定して動作する静音・高推力アクチュエータ。

◆万一の漏電にも安全な「低電圧DC−24Vシステム」

◆トロイダルトランスにより電磁波をカットして他の医療機器への影響に配慮しています。

6. 通気性抜群で衛生的なシーホネンス独自の メッシュボトム構造 を採用しています。

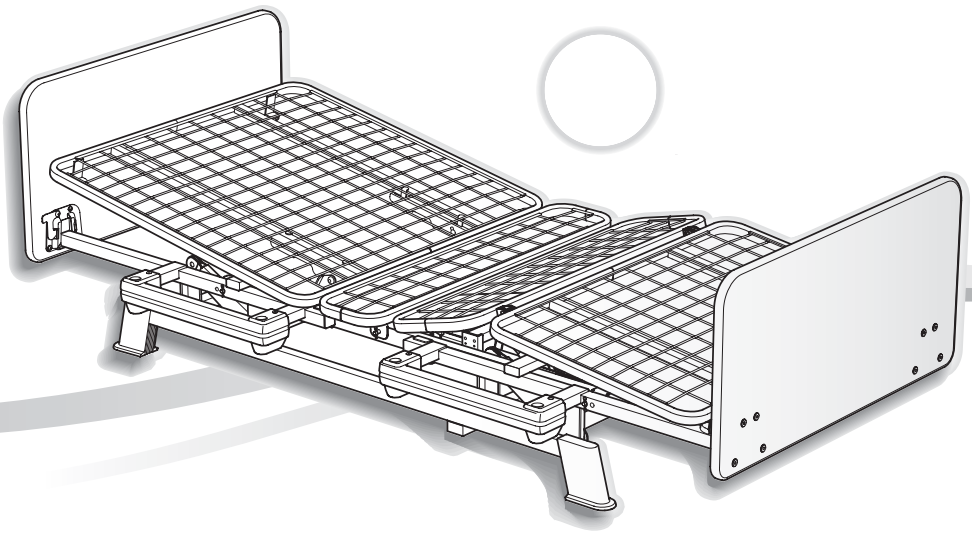
◆通気性に優れているため、湿気を発散し、雑菌の繁殖やカビの発生を防ぎます。

◆高強度溶接により、剛性と弾力性を兼ね備えています。

7. 抗菌塗装で 安全・衛生的。

◆高い抗菌効果を発揮するシーホネンス独自の抗菌塗装を施しています。

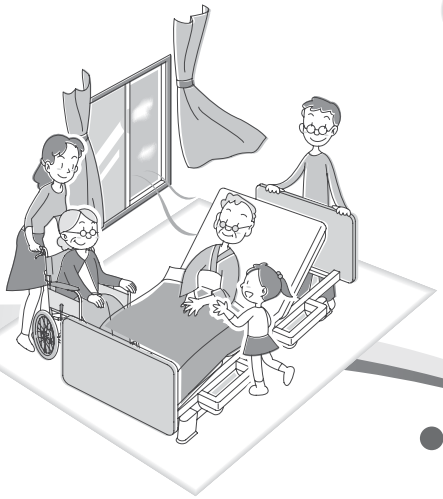
◆電装部は、防塵防水仕様で消毒剤などでの清拭も安心におこなえて衛生的です。



電動在宅ケアベッド

CC-2200 Camellia カメリア

取扱説明書



～もくじ～

ページ

はじめに

安全にお使いいただくために …… **1～7**
- 表示と絵表示について …… 1
- 警告ラベルについて …… 1
- 警告内容について …… 2～5
- 注意内容について …… 6～7

主要部のなまえとはたらき …… **8**

使いかた

手元スイッチのなまえとはたらき …… **9**

電源プラグについて …… **10**

操作のしかた …… **11～13**
- 2モーターの操作のしかた …… 11
- 背上げ脚連動の切り替えについて …… 12
- 3モーターの操作のしかた …… 13

設置

設置場所について …… **14**

開梱と部品の確認 …… **15**

組み立てかた …… **16～26**
- STEP1 脚座の取り付け …… 16
- STEP2 モーターユニットの取り付け …… 17
- STEP3 ハイローモーターの取り付け …… 18
- STEP4 ベッドの動作の確認 …… 19
- STEP5 座ボトムの取り付け …… 20
- STEP6 背ボトムの取り付け …… 21
- STEP7 フロントユニットの取り付け …… 22
- STEP8 膝ボトム・脚ボトムの取り付け …… 23
- STEP9 リアユニットの取り付け …… 24
- STEP10 マットレス止めの取り付け …… 25
- STEP11 ヘッドボード・フットボードの取り付け …… 26

組み立て後の点検 …… **27**

ページ

オプション

ベッドサイドレール …… 28
マットレス …… 29
キャスター …… 29〜31
部品の確認 …… 29
取り付けかた …… 30〜31
回転式アーム介助バー …… 31
介護リフト使用時のご注意 …… 32

分解

分解の前に …… 33
分解のしかた …… 33〜40
STEP1 ヘッドボード・フットボードの取り外し…… 33
STEP2 マットレス止めの取り外し…… 34
STEP3 リアユニットの取り外し…… 34〜35
STEP4 膝ボトム・脚ボトムの取り外し…… 36
STEP5 フロントユニットの取り外し…… 37
STEP6 背ボトムの取り外し…… 37〜38
STEP7 座ボトムの取り外し…… 38
STEP8 ハイローモーターの取り外し…… 39
STEP9 モーターユニットの取り外し…… 40
STEP10 脚座の取り外し（脚座を取り外して保管する場合） …… 40
付属部品と分解したユニットの保管 …… 41

こんなときは

日常のお手入れ …… 42
故障かな？と思ったら …… 42
緊急時の背下げ操作（停電・故障時などの対応） …… 43
背下げの方法 …… 43
もどしかた …… 43
保管と移動 …… 44
保管について …… 44
移動について …… 44
分解して保管または移動する場合 …… 44

仕　様 …… 45

保証とアフターサービス …… 46

はじめに

安全にお使いいただくために

必ずお読みください	必ずご使用前に『**安全にお使いいただくために**』をよくお読みになり正しくお使いください。 製品を安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためです。

表示と絵表示について

説明書の内容を無視し、誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を下の表示（絵表示と用語）で区分し、説明しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠ 警 告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が命にかかわるケガを負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注 意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人がケガを負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示しています。

＜絵表示の例＞

 感電注意	△記号は、警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図中の中に具体的な注意内容（左の図の場合には『感電注意』）が描かれています。
 分解禁止	⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容（左の図の場合には『分解禁止』）が描かれています。
 必ず守る	❗記号は、必ず実行していただく強制の内容があることを告げるものです。左図は、「必ず守る」を示します。

ベッドのご使用時には、下記の項目の『警告』および『注意』を必ずお読みください。

警告ラベルについて 下記参照
警告内容について 2～5ページ 参照
注意内容について 6～7ページ 参照

警告ラベルについて

ベッドをお使いの方に対して、特に注意していただきたいことをラベルにして、各ユニットなどに貼っています。

⚠ 注 意

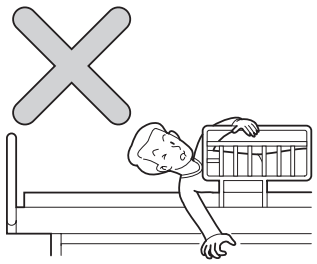
警告ラベルは、はがしたり傷をつけたりしないでください。

警 告 以下の項目は、全て危険行為ですので必ず守ってください。守らなければ人が生命にかかわるケガを負う可能性が想定されます。

●ベッドサイドレールやヘッド･フットボードのすき間に注意する

必ず守る

身体の一部（特に頭や首）がベッドサイドレールと回転式アーム介助バーのすき間、ベッドサイドレール･回転式アーム介助バーとヘッド･フットボードや各ボトム･マットレスなどのすき間に入らないように注意してください。
すき間に入った状態でベッドを操作すると、はさまれてケガをするおそれがあります。
また、すき間にはさまれたり、入ると抜けなくなったりするなどして、ケガをするおそれがあります。
特に予測できない行動をとると思われる方や、体位を自分で保持できない方、自分で危険な状態から回避することができないと思われる方につきましては、十分注意してください。



●ベッドサイドレールを使用するときはベッドからの転落に注意する

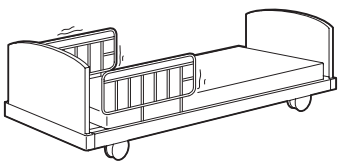
必ず守る

ベッドサイドレールとベッドサイドレール・回転式アーム介助バー、各ボードとベッドサイドレールのすき間から転落してケガをするおそれがあります。また、ベッドサイドレールの上から身を乗り出して転落し、ケガをするおそれがあります。
厚みのあるマットレスを使用する場合は、相対的にベッドサイドレールが低くなり、ベッドサイドレールを乗り越えやすくなりますのでご注意ください。
ベッドの背ボトムを上げた状態で使用する場合、転落予防としての効果を十分に発揮できないおそれがあります。
特に予測できない行動をとると思われる方や、体位を自分で保持できない方、自分で危険な状態から回避することができないと思われる方につきましては、十分注意してください。

●オプション部品は正しい向きで取り付ける

必ず守る

ベッドサイドレールや回転式アーム介助バーなどのオプション部品を取り付ける際は、正しい向きで取り付けてください。
ベッドから転落したり、意図せぬすき間が発生したりして、身体の一部がはさまれてケガをするおそれがあります。
正しい向きでの取り付けかたについては、各オプションの「取扱説明書」を参照してください。



●足先をベースフレームの上や下に置かない

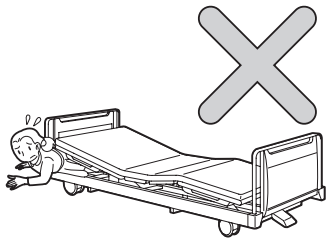
禁 止

ベースフレームの上に足をかけたり、足先を下にいれたりしないでください。
はさまれてケガをするおそれがあります。

●ベッドの下にもぐり込んだり、身体の一部を入れない

禁 止

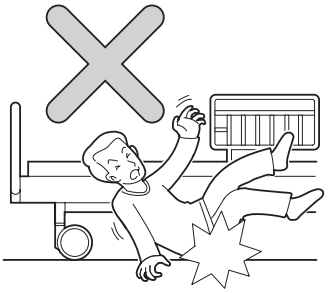
ベッドの可動部分（ボトムなど）とフレームやベッドサイドレール、回転式アーム介助バーなどとの間に身体の一部（頭や手、足）をはさんでケガをするおそれがあります。
ベッドの操作時は、ベッドの下や周りに障害物がないことを確認して操作してください。



●オプション部品や各ボードに腰掛けたり、踏み台代わりにしたり、足をかけて立ち上がらない

禁 止

ベッドサイドレールや回転式アーム介助バーなどのオプション部品やヘッド・フットボードに腰掛けたり、踏み台代わりにしたり、足をかけて立ち上がったりしないでください。
ベッドから転落・転倒してケガをしたり、ベッドやベッドサイドレール・回転式アーム介助バーなどが破損・変形するおそれがあります。



●12歳以下のお子さまや操作が理解できないと思われる方に操作させない

禁 止

12歳以下のお子さまや操作が理解できないと思われる方（認知症の方など）が１人で手元スイッチを操作した場合、誤ってベッドに身体がはさまれるなど、思わぬケガをするおそれがあります。１人で手元スイッチに触れる可能性がある場合は、次のいずれかの方法により操作を制限し、誤操作による事故を未然に防いでください。

・ベッドの操作ができないように手元スイッチのセーフティロックスイッチでロックする。9ページ 参照
・電源プラグを抜く 10ページ 参照

●ベッドをご使用の方に注意して操作する

必ず守る

ベッドをご使用の方がボトムの角度やベッドの高さ調節中に動くと、ベッドから転落したり、ベッドサイドレール・回転式アーム介助バーなどや各ボードなどとのすき間にはさまれたりして、ケガをするおそれがあります。
特に予測できない行動をとると思われる方や、体位を自分で保持できない方、自分で危険な状態から回避することができないと思われる方につきましては、十分注意してください。

●ベッドから離れるときは注意する

必ず守る

介護者などがベッドから離れたり、ベッドをご使用の方から一時的に目を離したりする際は、万一のベッドからの転落に備え、ご使用の方の状況に応じてボトムの角度を水平にしてベッドの高さを一番低い位置にしてください。

●乳幼児やお子さまには使用しない

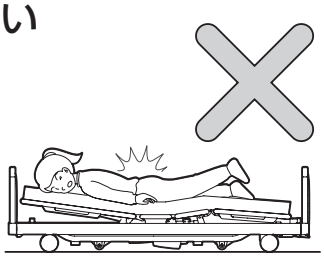
禁 止

本製品は、乳幼児やお子さま向けに設計されていません。ベッドサイドレールなどのすき間に身体の一部がはさまれて、ケガをするおそれがあります。
ベッドサイドレールを使用していてもすき間から転落して、ケガをするおそれがあります。

●うつ伏せや横向きに寝た状態で角度調節はおこなわない

禁 止

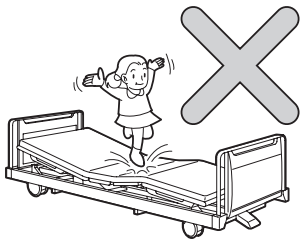
うつ伏せや横向きで寝た状態（仰向け以外）での角度調節は関節を逆に曲げることになり、ケガをするおそれがあります。
また、ベッドの頭側と足側を間違えた状態での角度調節も無理な姿勢となり、ケガをするおそれがあります。



●ベッドの上で飛び跳ねない

禁 止

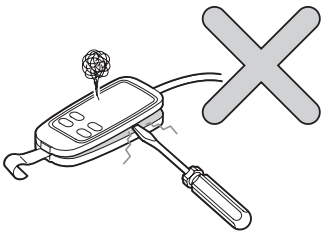
ベッドから転落・転倒してケガをしたり、ベッドが故障したりするおそれがあります。
特にお子さまにご注意ください。



●分解、改造はしない

禁 止

意図せぬすき間の発生や異常動作などにより、ケガをするおそれがあります。
弊社指定の技術者以外の方は絶対に修理しないでください。



●コード類を傷つけない

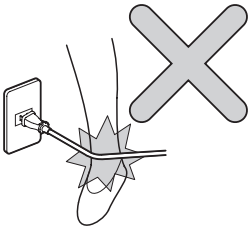
禁 止

手元スイッチなどの電装部品やコード類（電源コードなど）が破損し、感電・火災のおそれがあります。
ベッドの可動部に手元スイッチやコード類をはさまないようにしてください。
コード類に重い物を置いたり無理な力を加えたりしないでください。
ベッドでコード類を踏みつけないでください。
傷んだ手元スイッチなどの電装部品やコード類は修理（交換）を依頼してください。

●コード類に足を引っ掛けない

禁 止

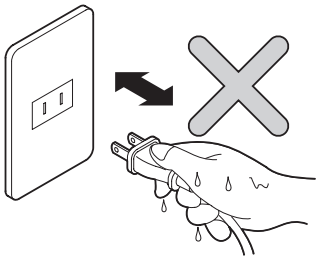
手元スイッチなどの電装部品やコード類（電源コードなど）に足を引っ掛けないようにしてください。
プラグやコードが破損し、感電・火災のおそれがあります。
また、転倒してケガをするおそれがあります。



●電源プラグを濡れた手で抜き差ししない

感電注意

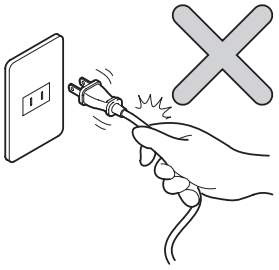
ショートして感電・故障するおそれがあります。



●電源プラグを持って抜く

感電注意

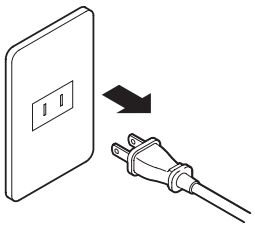
電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って抜いてください。
コードが傷んで感電・発火のおそれがあります。また、電源プラグには、無理な力を加えないでください。



●お手入れは電源プラグを抜いてからおこなう

プラグを抜く

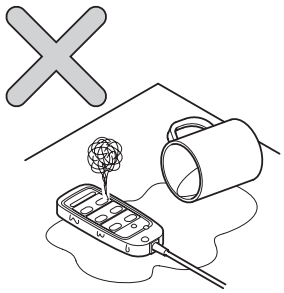
お手入れや掃除などベッドの下に入る際は、電源プラグを抜いてからおこなってください。
誤操作によるケガやショートによる感電のおそれがあります。



●水などをこぼさない

必ず守る

モーターや手元スイッチなどの電装品に水などをこぼさないでください。ショートして感電したり、故障したりする原因となります。
誤ってこぼしてしまった場合には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、販売店または弊社カスタマーサポートにご連絡ください。



●ベッドを2人以上で使用しない

このベッドは１人用の設計になっています。２人以上で使用すると、ベッドが破損してケガをするおそれがあります。

このベッドの最大使用者体重は 138kg です。一時的に介護者がベッドに乗る必要がある場合は、次の点を確かめてください。

禁 止

○ベッドにかかる荷重が最大使用者体重 138kg を超えていないこと

※ベッドに安全使用荷重以上の荷重を加えないでください。

・ベッドが破損してケガをするおそれがあります。

・このベッドの安全使用荷重は 174kg です。安全使用荷重は、ベッドの動作がおこなえる最大荷重であり、使用者体重とマットレスやオプションなどの付帯物の合計荷重です。

介護者がベッドに乗る機会の多い場合は、必ずお買い上げの販売店
または弊社カスタマーサポートに依頼してベッドの定期点検を受けてください。

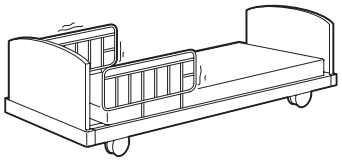
⚠ 注意　以下の項目は、全て危険行為ですので必ず守ってください。守らなければ人がケガを負う可能性や物品的損害の発生が想定されます。

●他社製品と組み合わせない

弊社が指定する適合品以外の製品とは組み合わせないでください。

禁 止

オプション製品などは、必ず弊社が指定する適合品を使用してください。適合品以外の製品と組み合わせると意図せぬすき間の発生や製品同士の干渉、安定性の低下などにより、ケガをしたり、ベッドが故障するおそれがあります。

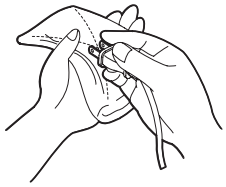


●電源プラグにほこりを付着させない

禁 止

電源プラグの表面にほこりが付着していると水分を含んで電流が流れ、絶縁状態が悪くなり、発火のおそれがあります。

電源プラグの表面にほこりが付着している場合、乾いた布などでよく拭き取ってください。

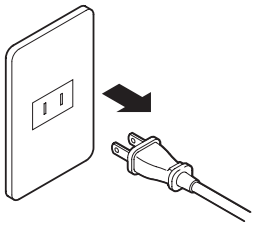


●電子治療器を使用するときは、必ず電源プラグを抜く

プラグを抜く

電子治療器（マイクロ波治療器、超短波治療器など）を同時に使用した場合、ベッドの故障や誤動作の原因となります。

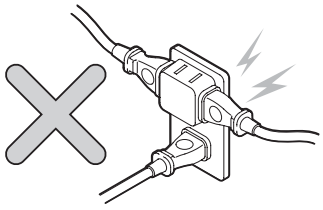
なお、他の ME 機器と併用する際は、安全を確認の上、使用してください。



●タコ足配線はおこなわない

禁 止

コンセントや延長コードの容量を超える電気製品を同時に接続使用すると、電源コードや電源プラグが発熱して発火するおそれがあります。



●ベッドは定期的に点検する

必ず守る

使用の頻度や環境により、製品は摩耗・劣化します。
定期的に各部のゆるみ、可動部の動作破損の有無などを点検してください。
思わぬケガをするおそれがあります。

●被災したベッドは点検・修理する

必ず守る

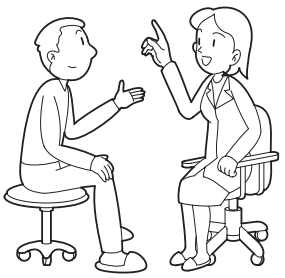
地震・火災・水害などで被災したベッドは、お買い上げの販売店または弊社カスタマーサポートまで点検・修理を依頼してください。

電装品のショートや漏電による感電・火災やベッドの変形による動作の異常によってケガをするおそれがあります。

●容態にあわせて使用する

必ず守る

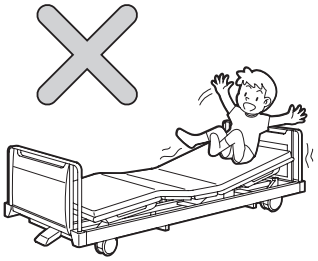
ベッドをご使用の方の容態にあわせて使用し、治療中の方は医師に相談してください。
ご使用の方の容態によっては、ベッドの操作で容態を悪化させる可能性があります。ベッドのご使用に際して不安や疑問があるときは、かかりつけの医師にご相談ください。



●上がっている背ボトムや脚ボトムに乗らない

禁 止

ボトムの支持部に大きな力がかかり、破損・変形の原因になります。



●火器に近付けない

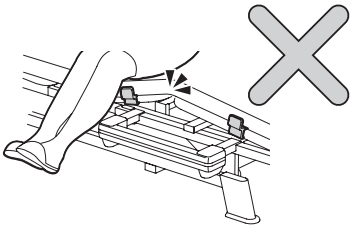
必ず守る

ベッドの近くで、ストーブなどの熱器具を使用しないでください。
変質・変形・発火などの原因になります。

●マットレス止めに身体をぶつけない

禁 止

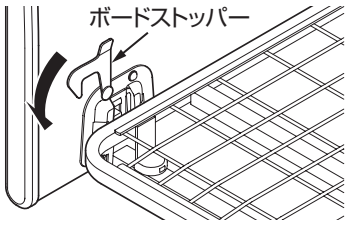
移乗の際などにマットレス止めに身体をぶつけないように注意してください。
ケガをするおそれがあります。



●ヘッド･フットボードは必ずストッパーをかける

必ず守る

ボードの取り付けが不完全な場合、身体を支えるためのボードにつかまったときやベッド移動でボードを押す（引く）ときなどに不意に外れ、転倒などによるケガのおそれがあります。



主要部のなまえとはたらき

手元スイッチ

ベッドの高さ、ボトムの角度を無段階で調節できます。
上部についているフックで定められた場所にかけてください。
※操作(動作)については、「使いかた」を参照してください。

9～11、13 ページ 参照

ヘッドボード

ボードストッパーを起こして、上に持ち上げると外れます。

26、33 ページ 参照

フットボード

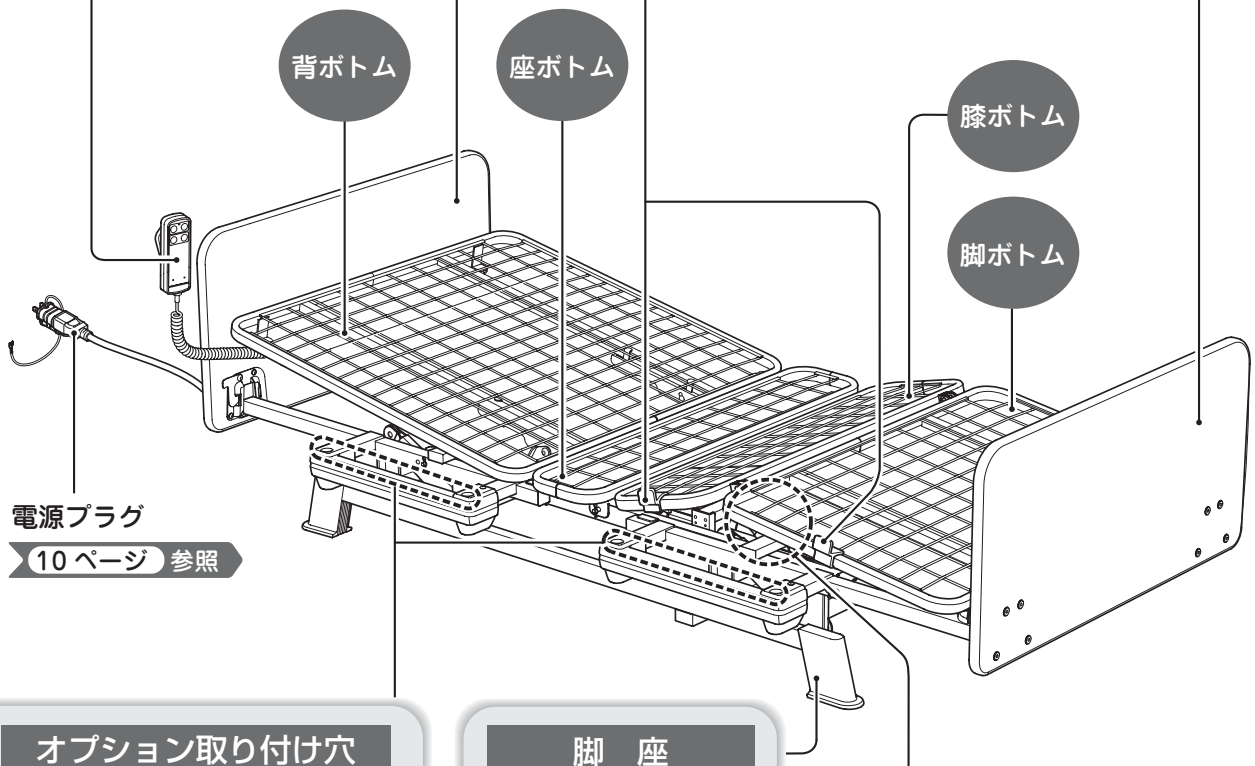
ボードストッパーを起こして、上に持ち上げると外れます。

26、33 ページ 参照

マットレス止め

マットレスのズレを防止します。

25、34 ページ 参照



オプション取り付け穴

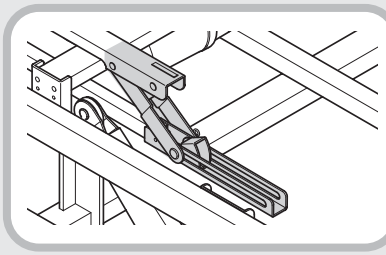
オプションを取り付けられます。
片側にそれぞれ4ヶ所あります。

28、31 ページ 参照

脚　座

左右に４カ所あります。

16、40 ページ 参照



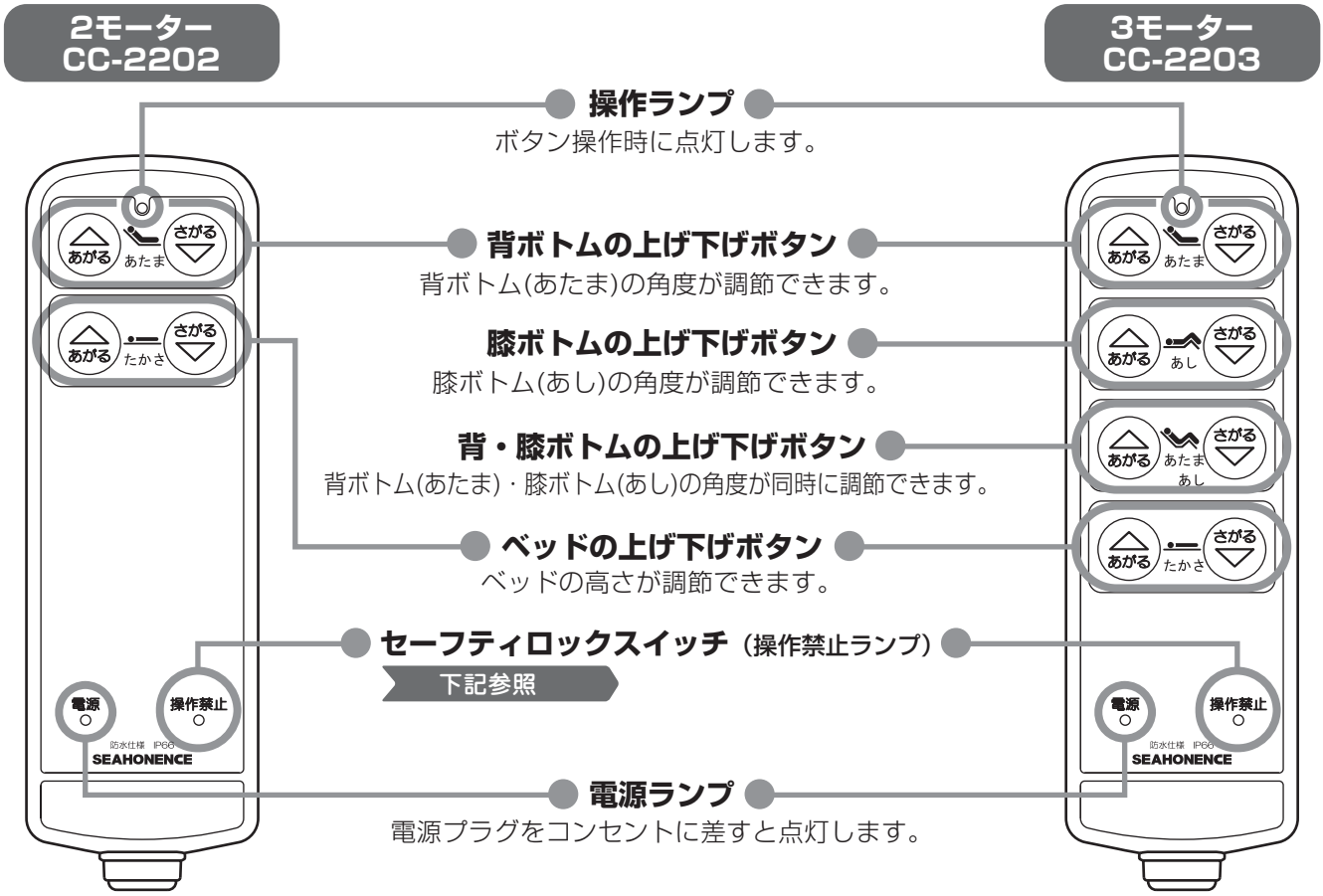
背上げ脚連動切り替えレバー

「背上げ脚連動」と「背上げ」の切り替えができます。

12 ページ 参照

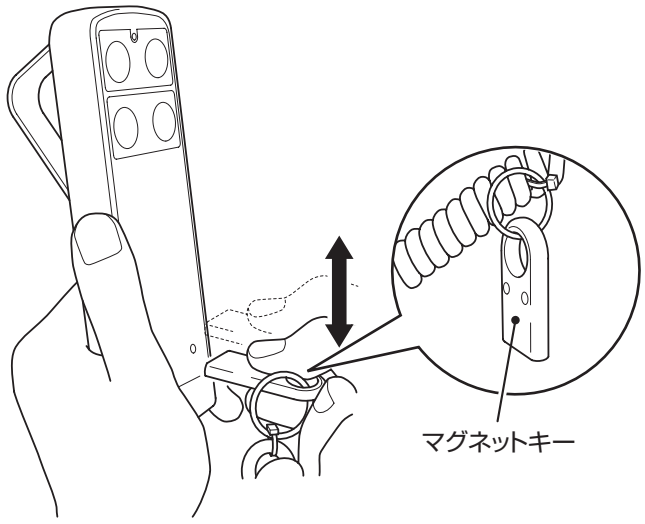
使いかた

手元スイッチのなまえとはたらき



セーフティロックスイッチについて

付属の専用マグネットキーを操作禁止の表記部付近でゆっくり上下に動かすと、手元スイッチの操作可能・禁止の切り替えができます。



●操作禁止ランプについて

手元スイッチの操作可能・禁止状態を表わします。

〈ランプの状態〉

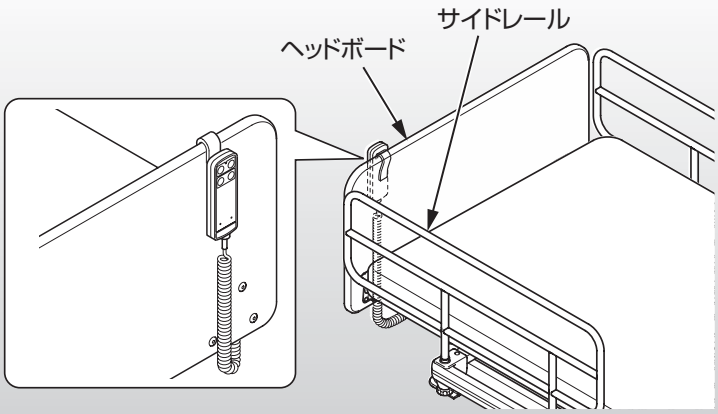
点灯時	消灯時
操作可能	操作禁止

※電源プラグをコンセントから抜いて、再度コンセントに差し込んだ場合、操作禁止状態になります。
ベッドを操作する場合は、マグネットキーで操作可能に切り替えてください。

お願い

◆手元スイッチの取付け位置について

手元スイッチにはフックがついています。
無意識に操作ボタンに触れて誤操作するおそれがありますので、フックを利用して、ヘッドボードもしくはサイドレールなどに手元スイッチのボタン面が外側になるように掛けてください。



Point

- 手元スイッチを押してもベッドが動かないときは、「故障かな？と思ったら」を参照して点検してください。42 ページ 参照
  それでも正常に動作しない場合は、販売店または弊社カスタマーサポートにご連絡ください。
- モーターの連続使用時間は２分までです。２分以上の連続使用はおこなわないでください。続けて使用する場合は十分に時間をおいて使用してください。

⚠ 警 告

◆12歳以下のお子さまや操作が理解できないと思われる方（認知症の方など）が１人で手元スイッチを操作した場合、誤ってベッドに身体がはさまれるなど、思わぬケガをするおそれがあります。
１人で手元スイッチに触れる可能性がある場合は、次のいずれかの方法により操作を制限し、誤操作による事故を未然に防いでください。

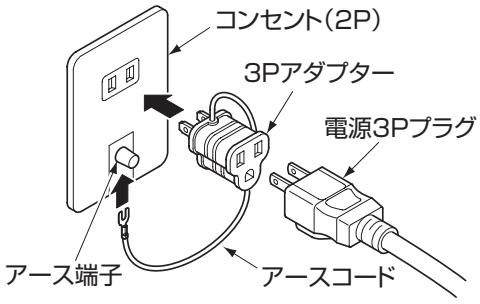
・ベッドの操作ができないように手元スイッチのセーフティロックスイッチでロックする。
9 ページ 参照
・電源プラグを抜く

◆手元スイッチは防水仕様ですが、むやみに水やジュースをこぼすと、感電、事故、破損の原因となります。
万一、液体がかかってしまった場合には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

電源プラグについて

付属の3Pアダプター使用時はアースを必ずつけてください。

2Pコンセントで使用するときは、付属の3Pアダプターを使用してください。この場合は、必ずアダプターについているアースをコンセントのアース端子に確実に接続してください。



操作のしかた

手元スイッチのボタンでベッドの背ボトム、膝ボトム、ベッドの高さを無段階に調節できます。
ボタンを押すと動き、離すとその位置で止まります。必要な位置まで動かしてお使いください。

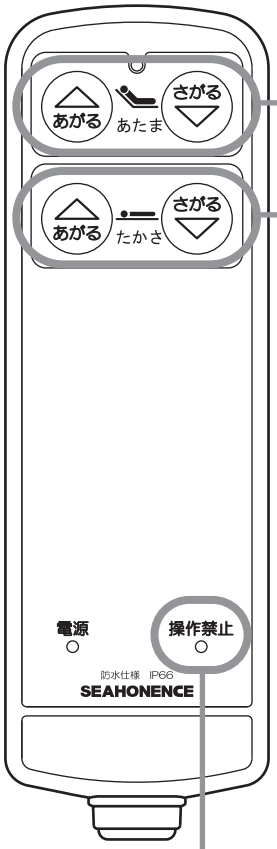
※2モーターは、膝ボトムだけでの角度調節はできません。
※後付けモーターセットを装着することで3モーターにすることができ、膝ボトムを個別に動かすことができるようになります。

● 操作の前に、ベッドの電源プラグをコンセントに差し込んでください。10ページ 参照

● セーフティロックスイッチを操作可能に切り替えてください。9ページ 参照

2モーターの操作のしかた

2モーター CC-2202

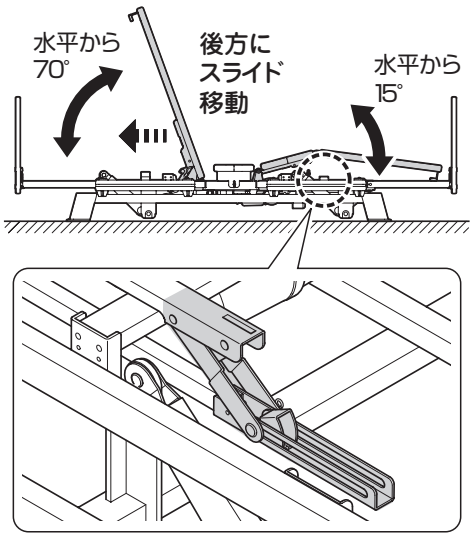


● 背上げについて

ベッドから起き上がるとき

ベッドでの読書やテレビ鑑賞に便利

あがる を押すと背ボトムが上がります
さがる を押すと背ボトムが下がります



●背ボトムの角度を調節できます。

背ボトムと膝ボトムが連動し、背ボトム約70度、膝ボトム約15度まで上がります。
背上げ脚連動切り替えレバーにより「背上げのみ」と「連動」の切り替えができます。
2モーターは、膝ボトムだけでの角度調節はできません。

背上げ脚連動切り替えレバーにより
「背上げのみ」と「連動」の切り替えができます。

12ページ 参照

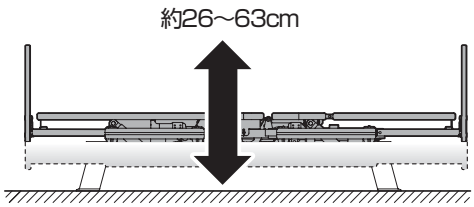
● 高さ調節について

乗り降りのときに高さを調節

介護などをしやすい高さに調節するのに便利

ベッドの下や周辺を掃除するときに便利

あがる を押すと高さが上がります
さがる を押すと高さが下がります



● ベッドの高さを調節できます。

ゆかからボトムまでの高さは約26~約63cm間で調節できます。

● セーフティロックスイッチ

手元スイッチの操作可能・禁止の切り替えができます。

9ページ 参照

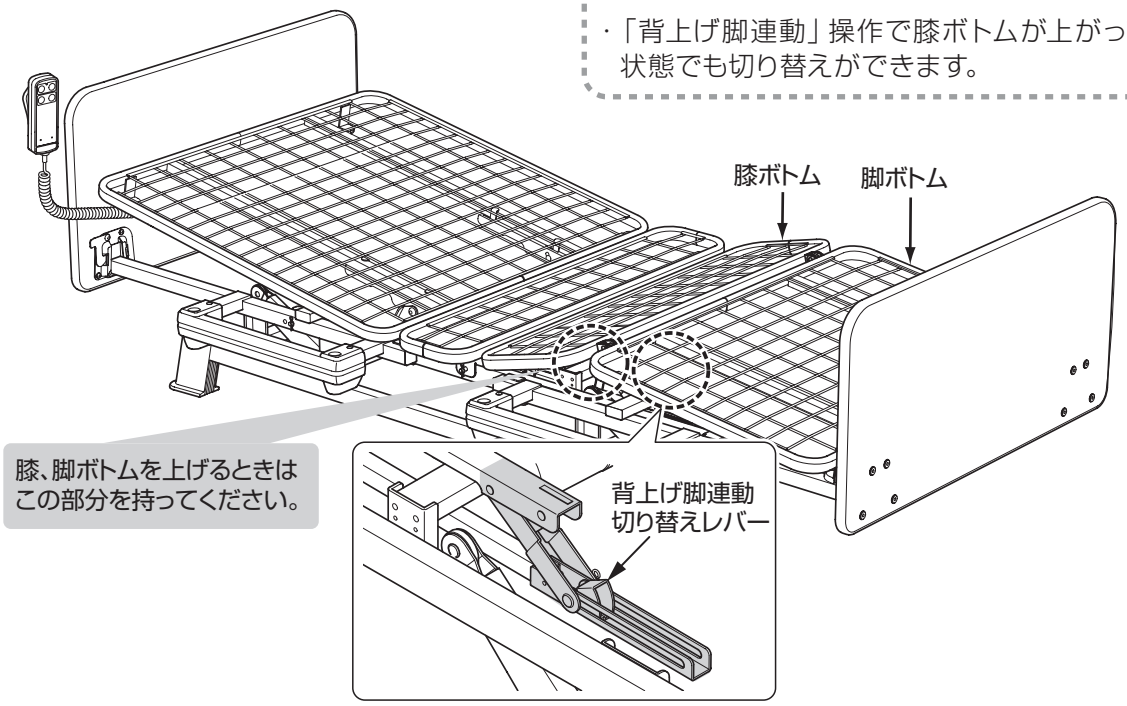
背上げ脚連動の切り替えについて

切り替えレバーにより背ボトムと膝ボトムが連動して上げる「背上げ脚連動」と背上げのみの「背上げ」の2種類の上げかたが選択できます。療養されている方の状態に合わせて使い分けてください。

1 膝・脚ボトムを持ち上げる

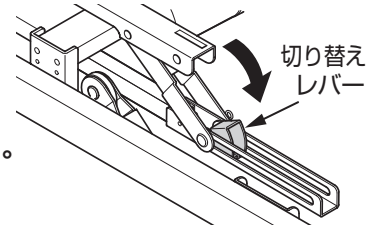
特 徴

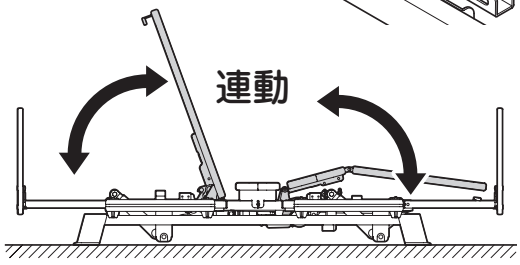
・療養されている方がベッドに乗っている状態でも操作できます。
・「背上げ脚連動」操作で膝ボトムが上がっている状態でも切り替えができます。



2 背上げ脚連動切り替えレバーを操作する

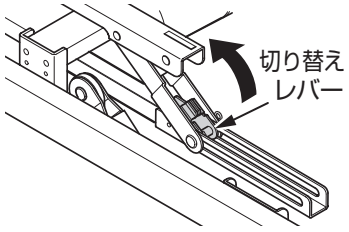
レバーが図のような位置にあると脚連動状態になります。

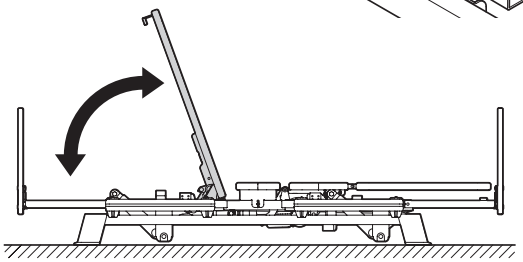




＜背上げ脚連動状態＞

レバーを上げると連動が解除され、背上げのみの操作になります。





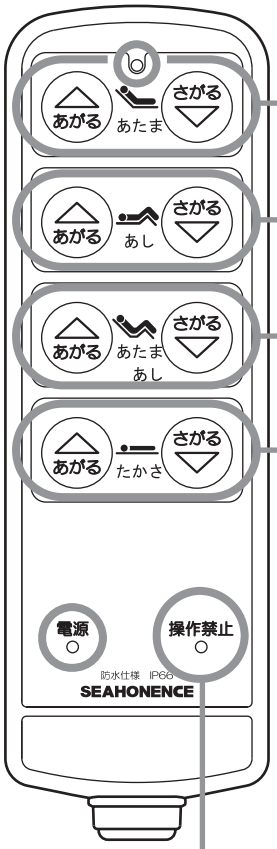
＜背上げ脚連動解除状態＞

⚠ 警 告

◆背上げ脚連動切り替えレバーの操作は、必ず手でおこなってください。
◆ボトムとフレームの間で手を挟まないよう注意してください。

3モーターの操作のしかた

3モーター
CC-2203

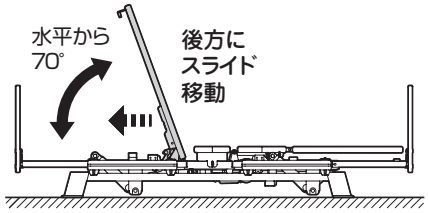


● 背上げについて

ベッドから起き上がるとき

ベッドでの読書やテレビ鑑賞に便利

あがる を押すと背ボトムが上がります
さがる を押すと背ボトムが下がります



●背ボトムの角度を調節できます。

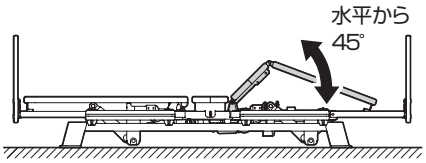
背ボトムは、水平から最大70度まで調節できます。

● 膝上げについて

背上げをおこなう場合に便利

からだに負担をかけない

あがる を押すと膝ボトムが上がります
さがる を押すと膝ボトムが下がります



●膝ボトムの角度を調節できます。

膝ボトムは、水平から最大45度まで調節できます。

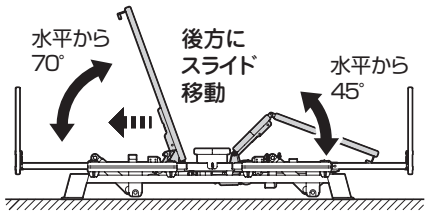
※背上げをおこなう場合、先に膝ボトムを上げておくと体のずれが少なくなります。

※からだに負担がかからないように調節します。

● 背・膝上げについて

体のずれを少なく背上げを行う場合に便利

あがる を押すと背ボトム･膝ボトムが上がります
さがる を押すと背ボトム･膝ボトムが下がります



●背・膝ボトムを同時操作できます。

背ボトムは水平から最大70度、膝ボトムは水平から最大45度まで同時に調節できますが、どちらかが水平または最大になると片側のみの操作になります。

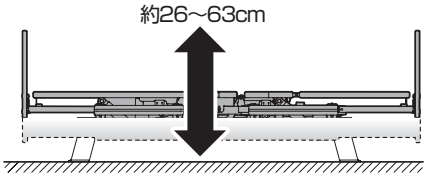
● 高さ調節について

乗り降りのときに高さを調節

介護などをしやすい高さに調節するのに便利

ベッドの下や周辺を掃除するときに便利

あがる を押すと高さが上がります
さがる を押すと高さが下がります



●ベッドの高さを調節できます。

ゆかからボトムまでの高さは約26～約63cm間で調節できます。

● セーフティロックスイッチ

手元スイッチの操作可能・禁止の切り替えができます。

9ページ 参照

⚠ 警告

◆ベッドに乗り降りする場合は乗り降りしやすい高さにベッドを調節し、座ボトムに腰かけてからおこなってください。

他のボトムから乗り降りすると、ケガや故障のおそれがあります。特に背ボトム、膝･脚ボトムだけに荷重をかけると大変危険です。

設置

設置場所について

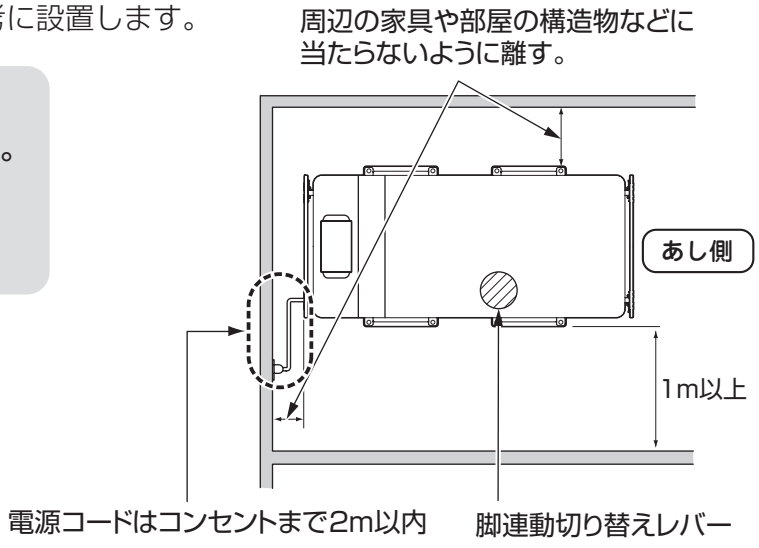
ベッドを設置する際は、以下の条件を考慮してください。

設置スペースを確保する

次のことを考慮したうえで、右図を参考に設置します。

1.療養されている方がベッドの左右どちら側から乗り降りしやすいか。

2.介助をするためのスペースがどれだけ必要か。



水平で丈夫なゆかを選ぶ

ベッドの重量は最大約71Kgです。ベッドの重量と療養される方、オプション製品、寝具なども含めた重量が使用時の静荷重となります。この荷重に十分耐えられるゆかの強度を確保してください。

電源プラグが抜き差ししやすいところにベッドを設置してください。

⚠ 注意

事故、破損、ケガをします。

◆ベッドと壁や周りのものとのすき間にはさまれないように注意してください。
身体の一部がはさまれて、ケガをするおそれがあります。
特に予測できない行動をとると思われる方や、体位を自分で保持できない方、自力で危険な状態から回避することができないと思われるかたにつきましては十分ご注意ください。

◆ベッドを操作する（高さ調節や背上げ）際に周辺の用具や家具、部屋の構造物に気をつけてください。
ご使用の際には、ベッドの可動範囲周辺の用具や家具、部屋の構造物、電源プラグにあたらないことを確認してください。

◆ベッドの電源は直接コンセントからとってください。
延長コードやテーブルタップなどを使用すると火災の原因になります。

◆電冷暖房機の風が直接ベッドに当たらないようにベッドを設置してください。

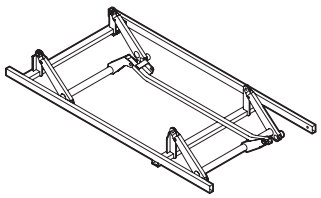
開梱と部品の確認

●組み立てる前に下記の部品がすべて揃っているか確認してください。
●不足している部品や破損している部品がある場合は、販売店または弊社カスタマーサービスにご連絡ください。

ハイローベースユニット

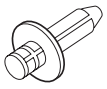
142×75×20（cm）
約 16.5kg（21kg）*

☐ ハイローベースユニット

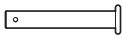


☐ 脚座（4個）

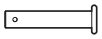
☐ プッシュリベット（4本）



☐ ピン A（4本）



☐ ピン B（1本）



☐ ピン C（10本）

☐ 取扱説明書（1冊）

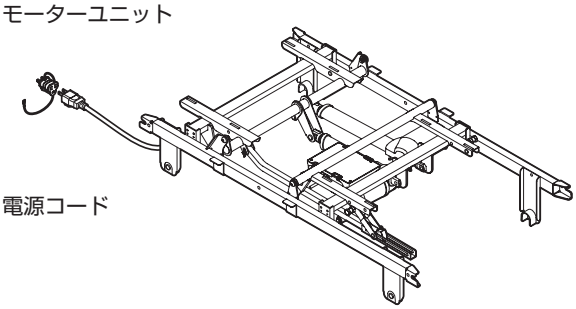
☐ スピードピン（15本）
（予備 3本）

☐ マットレス止め（6個）

モーターユニット

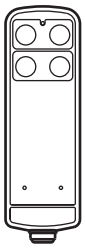
118×69.5×27.5（cm）
CC-2202：約 21kg（26kg）*
CC-2203：約 22.5kg（27.5kg）*

☐ モーターユニット



☐ 電源コード

☐ 手元スイッチ

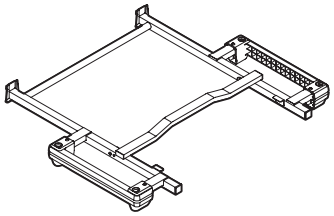


イラストは 2 モーター（CC-2202）です。

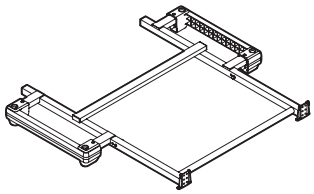
フロントユニット / リアユニット / 座ボトム

107×100×15（cm）
約 11.3kg（14kg）*

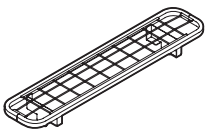
☐ フロントユニット



☐ リアユニット



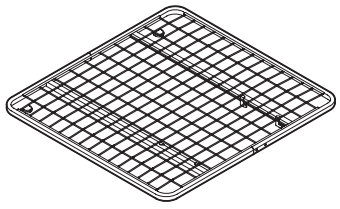
☐ 座ボトム



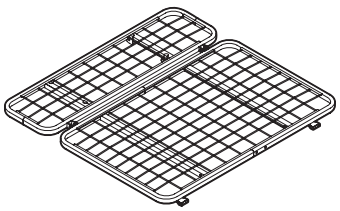
背ボトム / 膝・脚ボトム

90.5×89.5×10.3（cm）
約 11.2kg（15kg）*

☐ 背ボトム



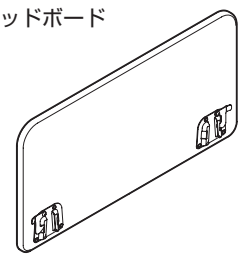
☐ 膝・脚ボトム



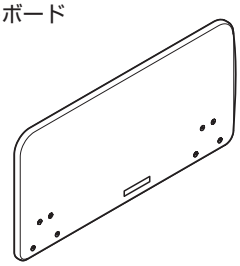
ヘッドボード / フットボード

92×48×9.5（cm）
約 9.5kg（11.5kg）*

☐ ヘッドボード



☐ フットボード



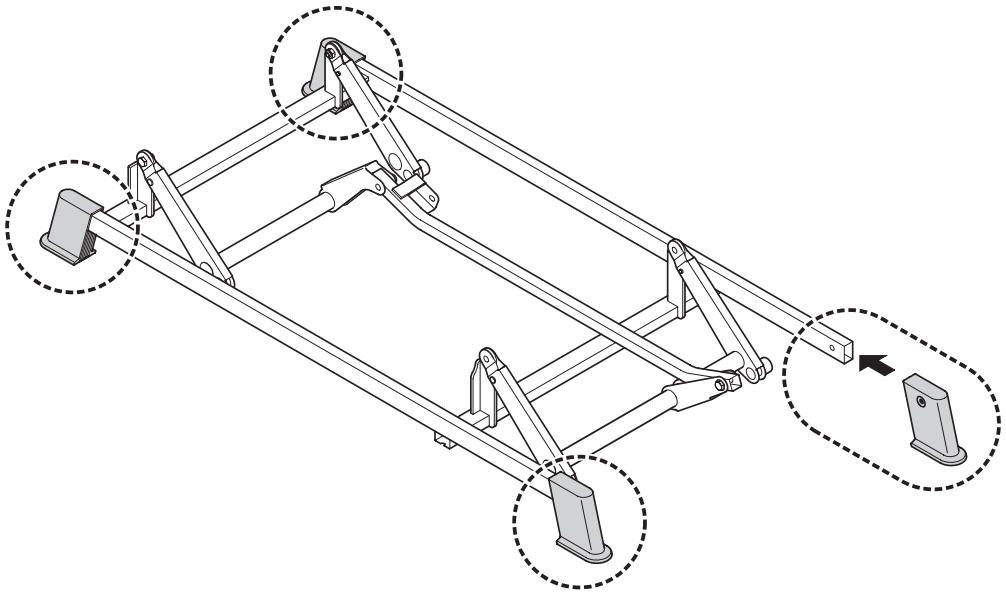
*：（ kg）は梱包材を含めた重量です。

組み立てかた

STEP1　脚座の取り付け

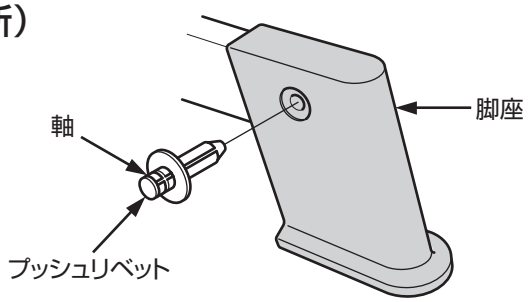
ベッドを組立てる前に、14ページの「設置場所について」を参照してベッドの配置を決めてください。**作業は二人以上でされることをおすすめします。**

1 ハイローベースユニットに脚座を差し込む（4ヶ所）

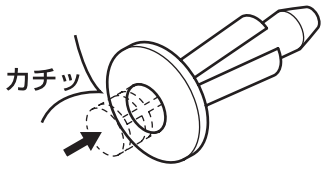


2 脚座をプッシュリベットで固定する（4ヶ所）

1. 脚座にプッシュリベットを差し込みます。



2. カチッと音がするまで軸を差し込みます。



Point

●脚座には左右があります。穴の開いている方を内側にしてください。

⚠ 注意

◆脚座はプッシュリベットで確実に固定してください。事故、破損の原因となります。

STEP2　モーターユニットの取り付け

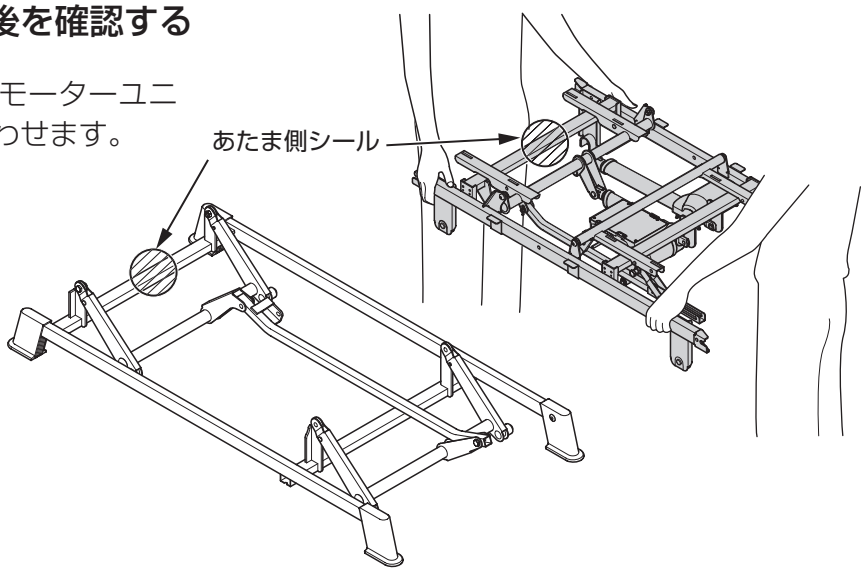
⚠ 注意

事故、破損、ケガをします。

◆組み立て作業は必ず2人以上でおこなってください。

2 モーターユニットの前後を確認する

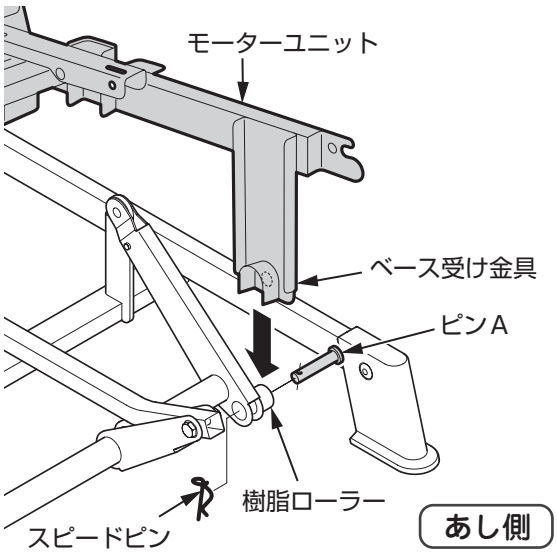
ハイローベースユニットとモーターユニットのあたま側シールを合わせます。



3 モーターユニットをハイローベースユニットに取り付ける

1. モーターユニットを持ち上げ、ベース受け金具をハイローベースユニットの樹脂ローラーにのせます。（４ヶ所）

2. ピンAを差し込み、スピードピンで固定します。（４ヶ所）



⚠ 注意

事故、破損をします。

◆モーターユニットのあたま側シールとハイローベースユニットのあたま側シールを合わせてください。

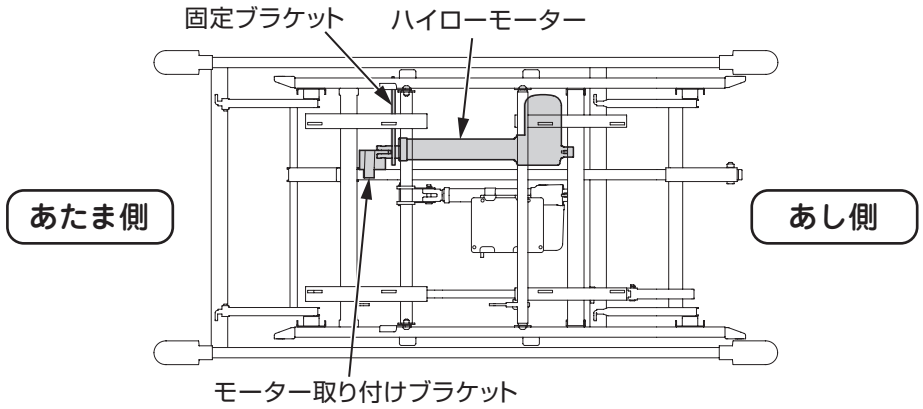
◆ピンAとスピードピンはしっかりと差し込んでください。

事故、ケガをします。

◆手、指づめに注意してください。

STEP3　ハイローモーターの取り付け

位置関係図　ベッドを上から見たイラストです。



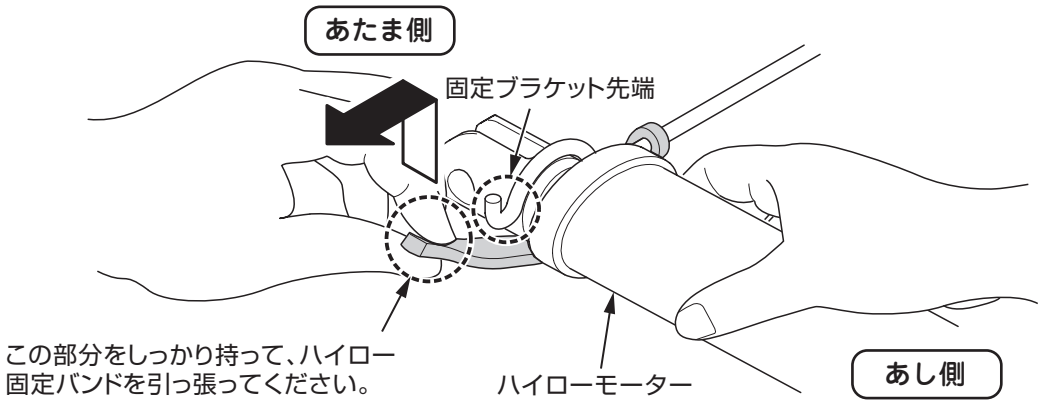
1　ハイロー固定バンドを取り外す

ハイロー固定バンドを矢印の方向に引っ張って固定ブラケットの先端から外します。

⚠ 注 意

事故、破損をします。

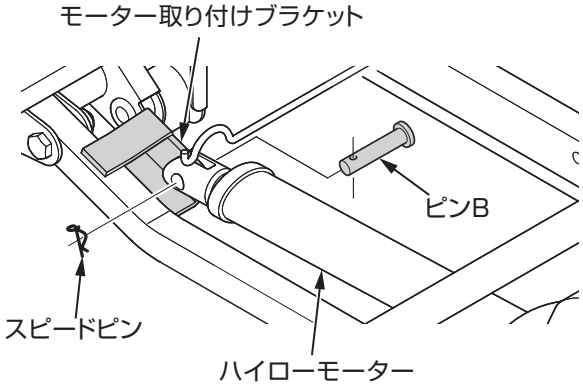
◆ハイローモーターが脱落しないように必ずハイローモーターを手で支えてください。



2　モーター先端をブラケットに取り付ける

1. モーター先端とモーター取り付けブラケットの穴を合わせます。

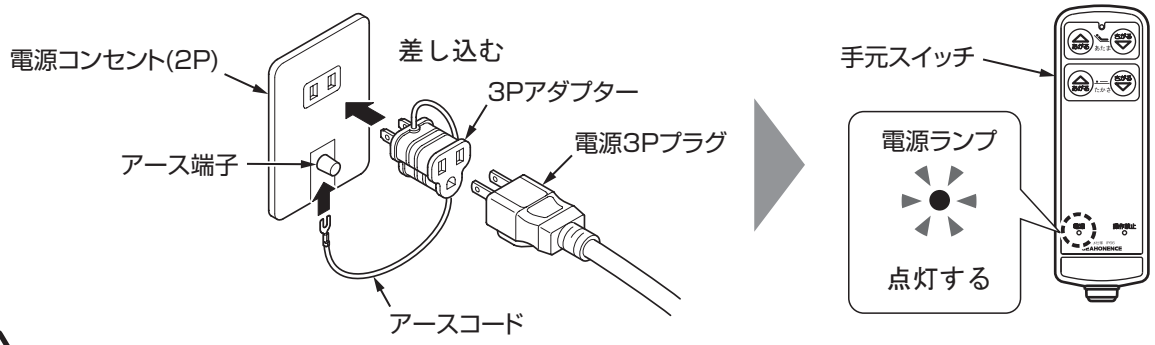
2. ピンBを差し込み、スピードピンで固定します。



STEP4　ベッドの動作の確認

1 電源プラグをコンセントに差し込む

電源プラグをコンセントに差し込むと手元スイッチの電源ランプが点灯します。



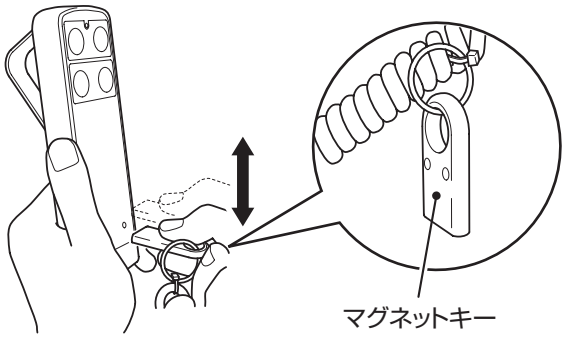
⚠ 警 告

◆付属の3Pアダプター使用時は、アースを必ずつけてください。

2 セーフティロックスイッチが操作禁止状態になっているときは、ロックを解除する

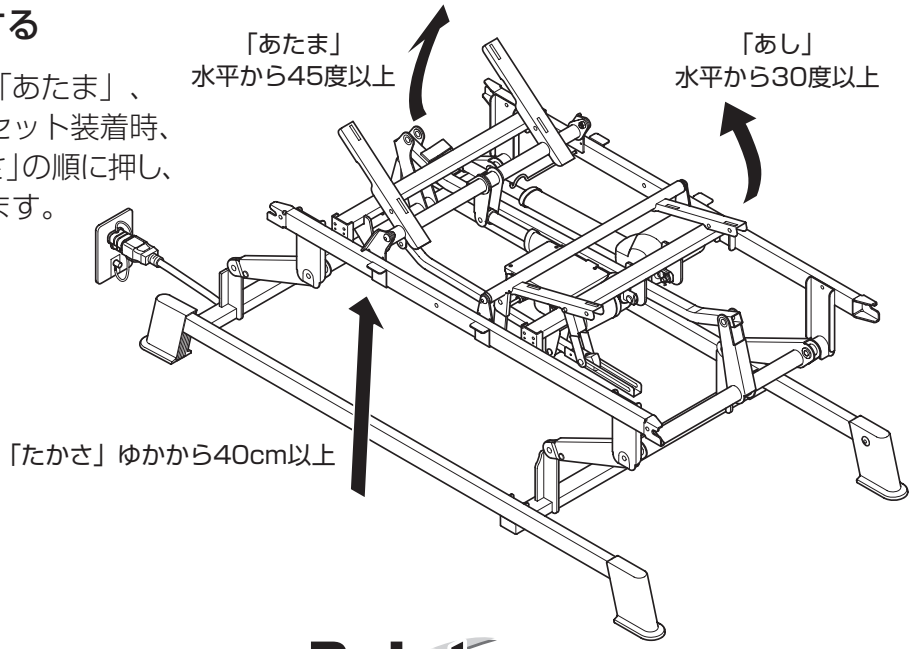
付属の専用マグネットキーを操作禁止の表記部付近でゆっくり上下に動かし、ロックを解除します。

9 ページ 参照



3 ベッドの動作を確認する

手元スイッチのボタンを「あたま」、「あし（後付けモーターセット装着時、CC-2203のみ）」、「たかさ」の順に押し、正常に動作するか確認します。



⚠ 注 意

事故、破損をします。

◆2モーターは、安全のために背上げ脚連動にして上げておいてください。

Point

- あたま、あし（後付けモーターセット装着時、CC-2203のみ）、たかさは、十分上げた状態にしておくと組み立てやすくなります。

この時点で下記の項目を確認してください。

・手元スイッチの電源ランプは点灯していますか？
・手元スイッチの各種ボタンを押したとき、操作ランプは点灯していますか？
・モーターユニットおよびモーターを取り付けたときのピンAとピンB、スピードピンは確実に差し込まれていますか？
・モーターから異常音がしていませんか？
・あたま、あし（後付けモーターセット装着時、CC-2203のみ）、たかさがスムーズに動作しますか？

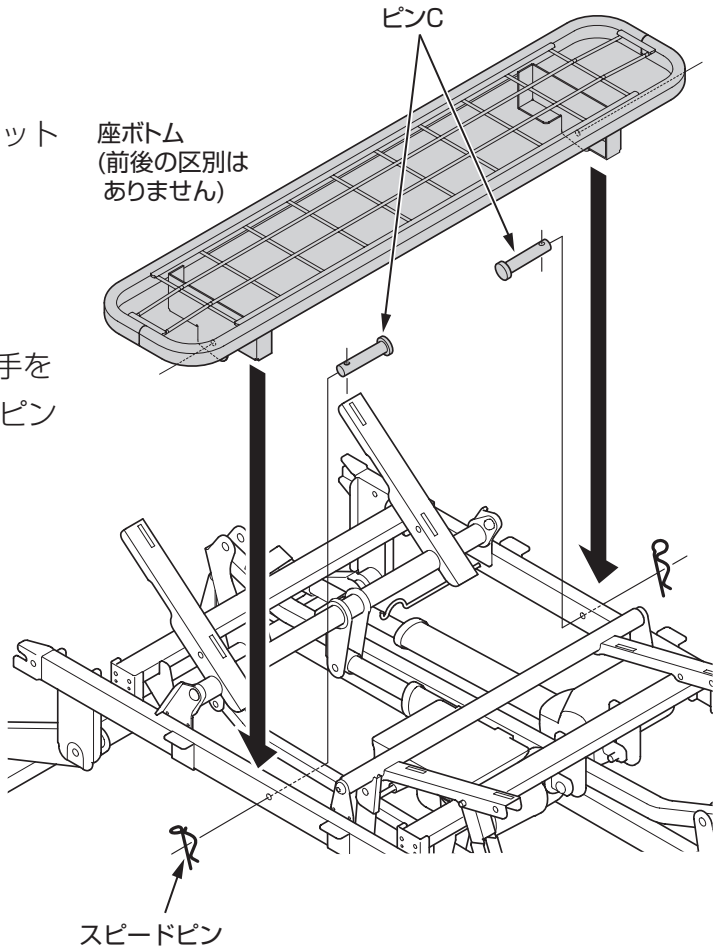
以上の項目を確認して、異常がある場合は、もう一度「STEP1　脚座の取り付け 16 ページ 」から見直してください。
それでも直らない場合は、組み立てをやめて電源プラグをコンセントから抜き、販売店または弊社カスタマーサポートにご連絡ください。

STEP5　座ボトムの取り付け

1 座ボトムを取り付ける

1. 座ボトムの取付け穴とモーターユニットの取付け穴を合わせます。

2. ピンCをモーターユニットの下から手を入れて内側から差し込み、スピードピンで固定します。
（左右２ヶ所）



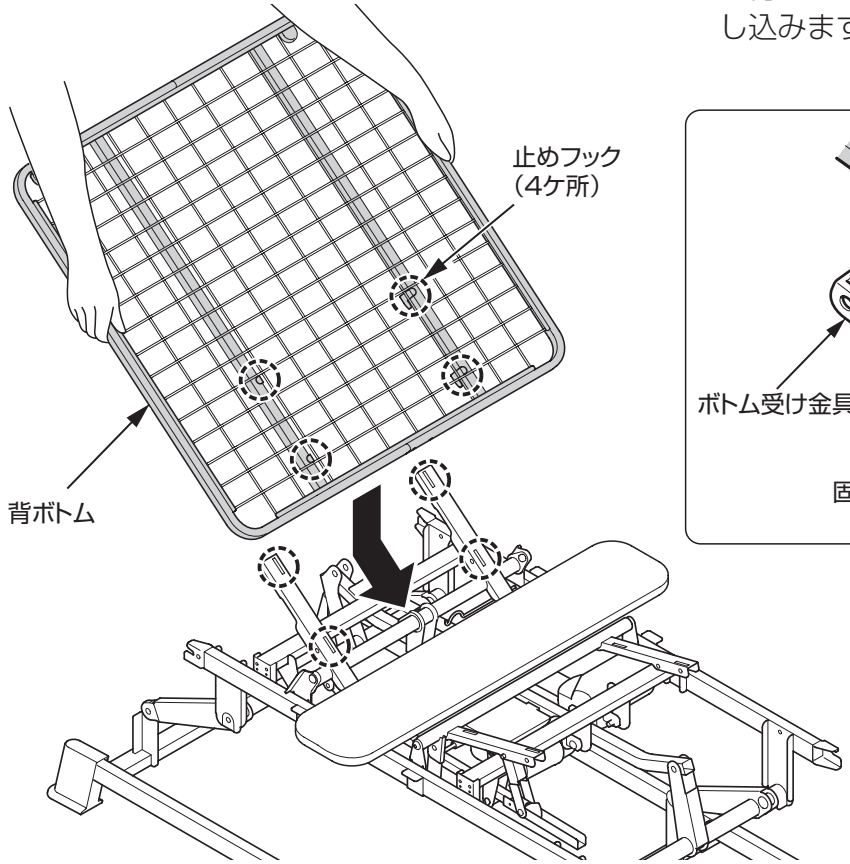
⚠ 注意

事故、破損をします。
◆ピンCとスピードピンはしっかりと差し込んでください。

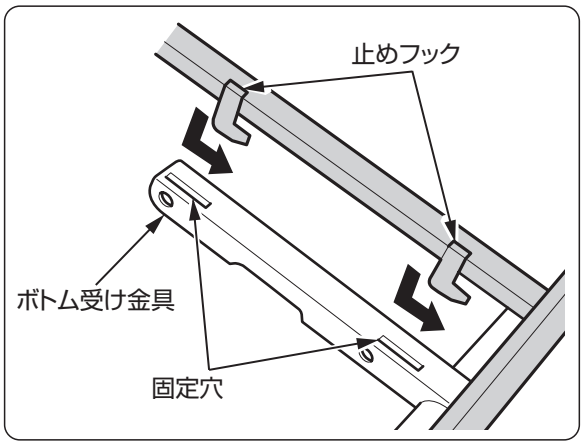
STEP6　背ボトムの取り付け

1 背ボトムを取り付ける

1. 背ボトムを図のように持ちます。

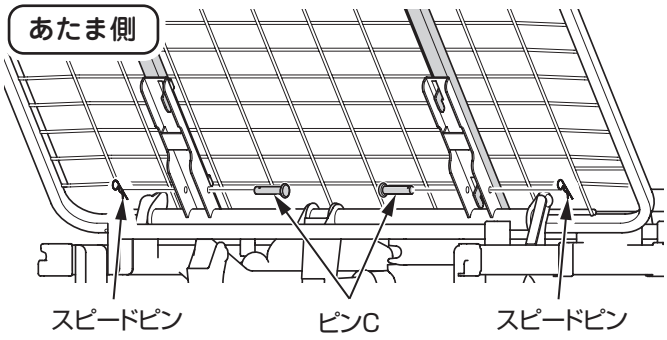


2. 背ボトムの止めフックをボトム受け金具の固定穴に合わせ、矢印の方向に背ボトム全体をスライドさせて差し込みます。（左右４ヶ所）



2 ピンで固定する

ボトム受け金具の穴にピンCを内側から外側に向けて差し込み、スピードピンで固定します。（左右２ヶ所）



⚠ 注意

事故、破損をします。

◆背ボトムの止めフックがボトム受け金具の固定穴に確実に入っているか必ず確認してください。

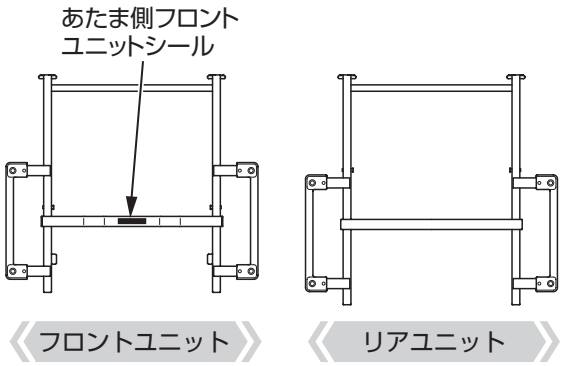
◆ピンCとスピードピンはしっかりと差し込んでください。

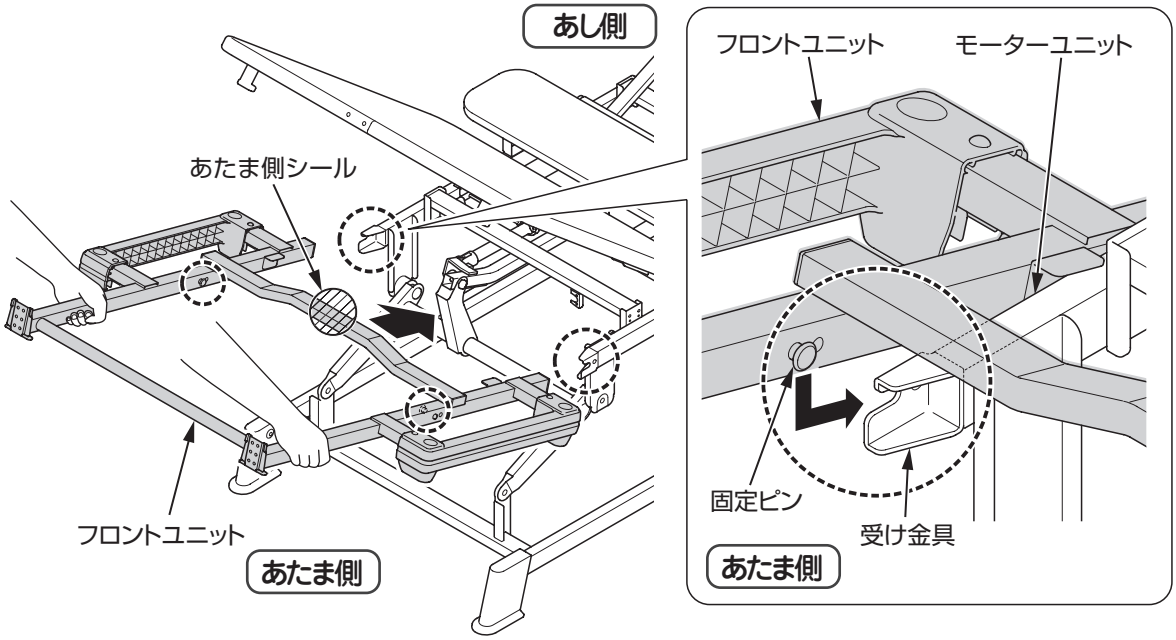
STEP7　フロントユニットの取り付け

1 フロントユニットを取り付ける

1. フロントユニットを下図のように持ちます。

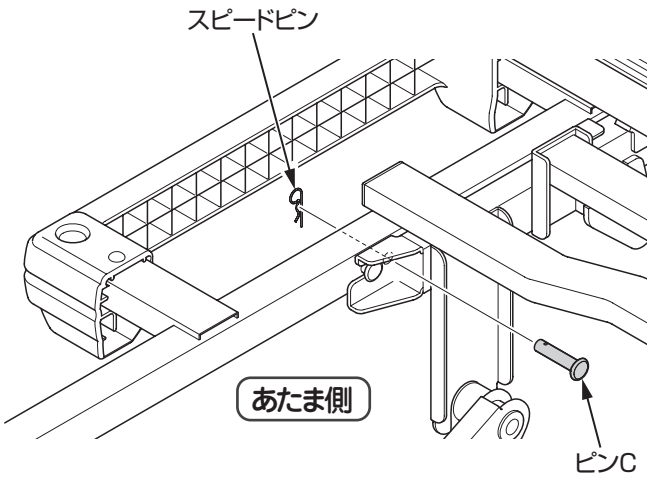
2. フロントユニットの固定ピンがモーターユニットの受け金具の溝にはまり込むようにフロントユニットを取り付けます。





2 ピンで固定する

フロントユニットと受け金具の穴を合わせてピンCを内側から外側に向けて差し込み、スピードピンで固定します。（左右２ヶ所）



⚠ 注意

事故、破損をします。

◆フロントユニットのあたま側シールを必ず確認してください。

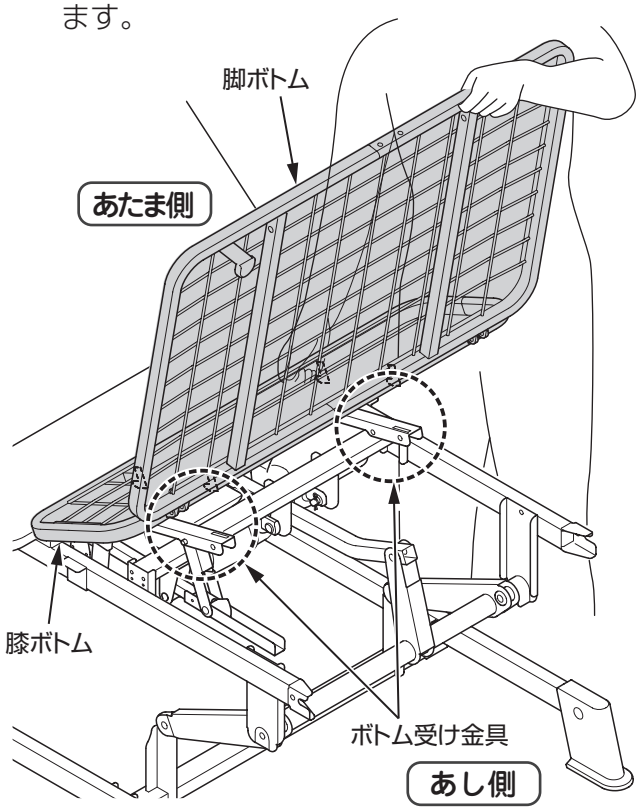
◆フロントユニットの固定ピンがモーターユニットの受け金具の溝にはまり込んでいるか必ず確認してください。

◆ピンCとスピードピンはしっかりと差し込んでください。

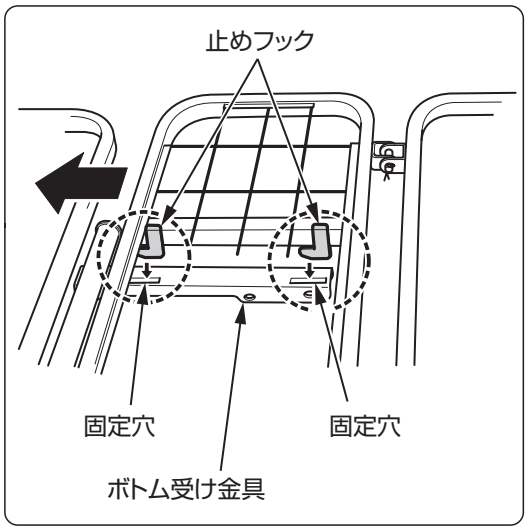
STEP8　膝ボトム・脚ボトムの取り付け

1 膝ボトムと脚ボトムを取り付ける

1. 膝ボトムと脚ボトムを図のように持ちます。

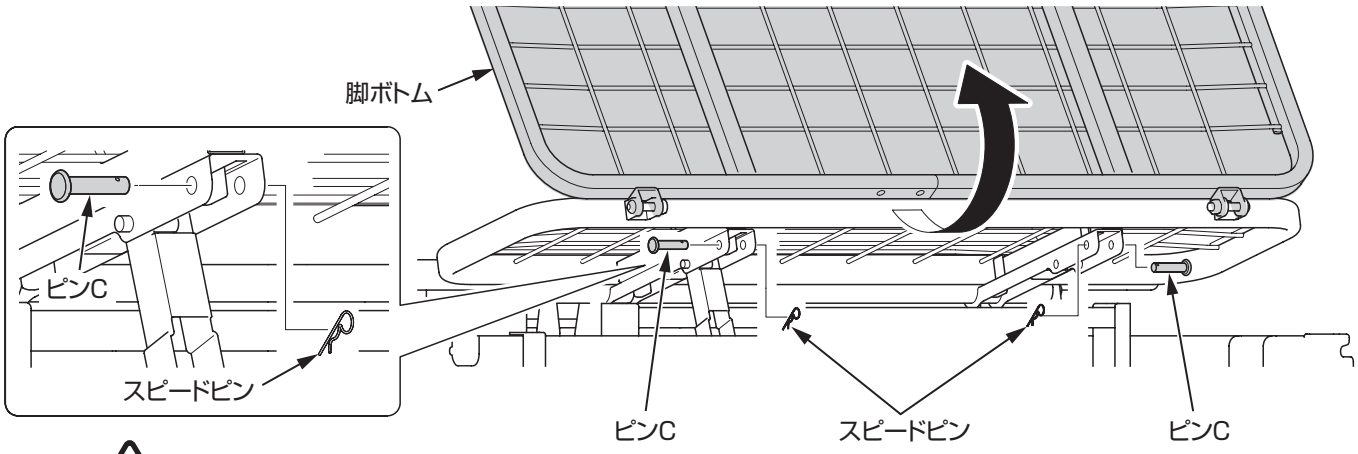


2. 膝ボトムの止めフックをボトム受け金具の固定穴に合わせ、矢印の方向にボトム全体をスライドさせて差し込みます。（左右４ヶ所）



2 ピンで固定する

脚ボトムを図のように押し上げて、ボトム受け金具の穴にピンCを外側から内側に向けて差し込み、スピードピンで固定します。（左右２ヶ所）



⚠ 注意

事故、破損をします。

◆膝ボトムの止めフックがボトム受け金具の固定穴に確実に入っているか必ず確認してください。

◆ピンCは、ベッドの外側から内側に向けて差し込みスピードピンで固定してください。

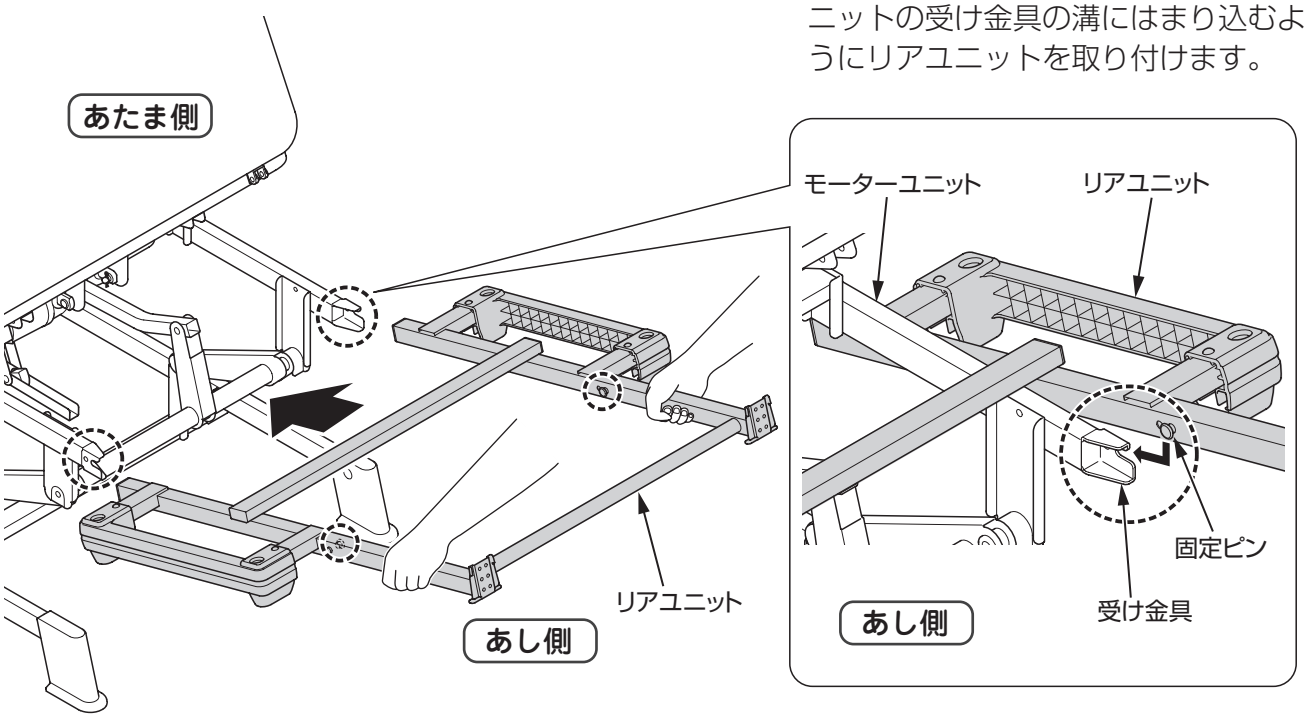
◆脚ボトムの落下に注意してください。

STEP9　リアユニットの取り付け

1 リアユニットを取り付ける

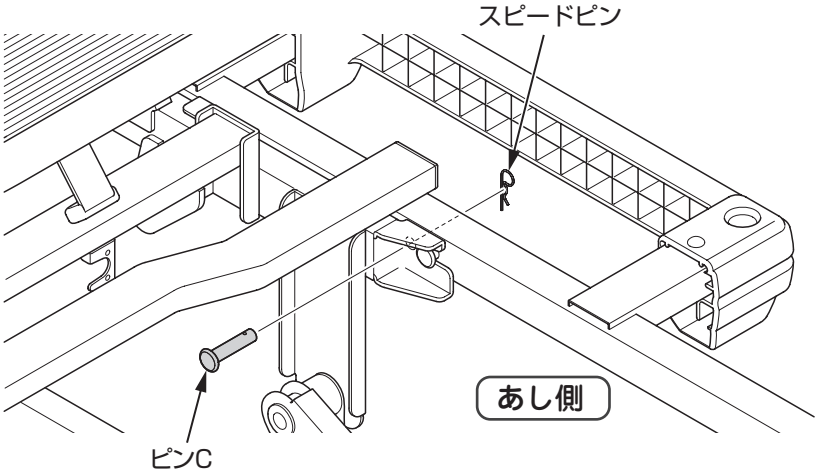
1. リアユニットを下図のように持ちます。

2. リアユニットの固定ピンがモーターユニットの受け金具の溝にはまり込むようにリアユニットを取り付けます。



2 ピンで固定する

リアユニットと受け金具の穴を合わせてピンCを内側から外側に向けて差し込み、スピードピンで固定します。（左右２ヶ所）



⚠ 注意

事故、破損をします。

◆リアユニットの固定ピンがモーターユニットの受け金具の溝にはまり込んでいるか必ず確認してください。

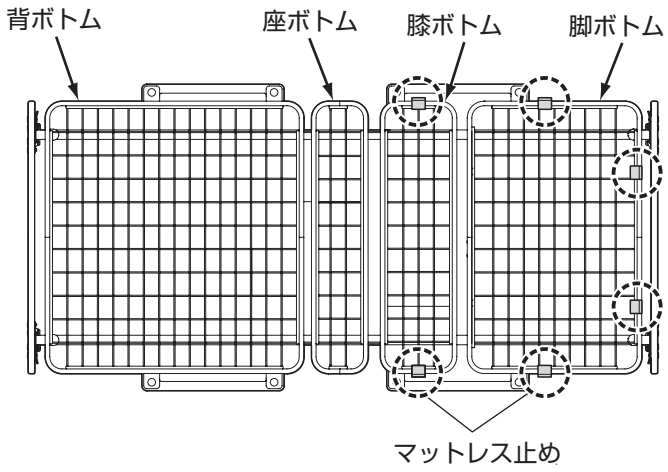
◆ピンCとスピードピンはしっかりと差し込んでください。

◆脚ボトムの落下に注意してください。

STEP10　マットレス止めの取り付け

ベッドをお使いになる方に合わせて取付け位置を決めてください。

取り付け位置参考例

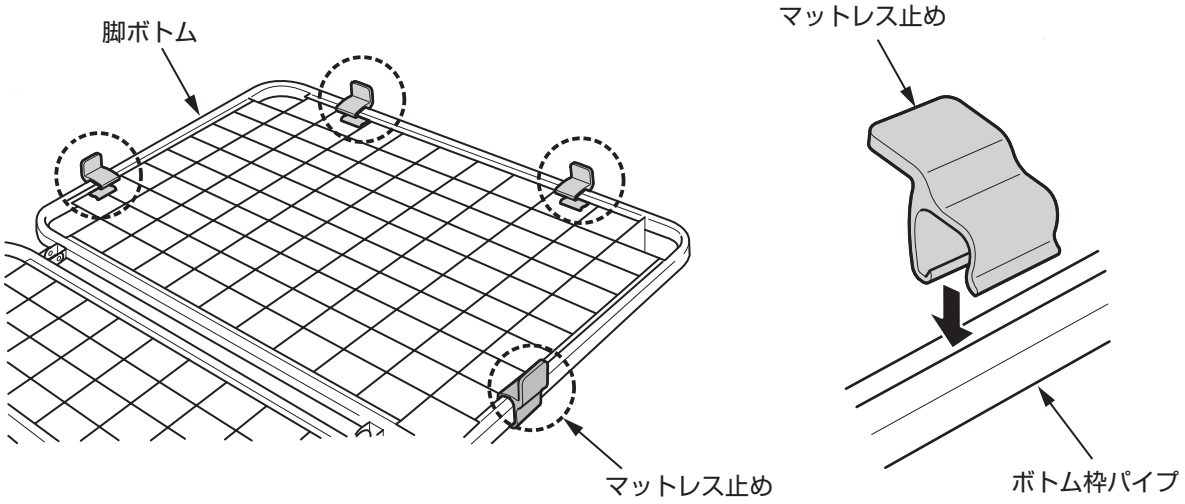


お願い

◆座ボトムへのマットレス止めの取り付けは、ベッドの乗り降りの邪魔になるためおすすめできません。

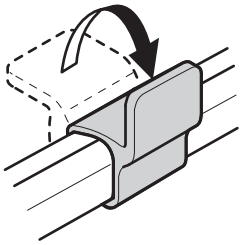
1　差し込む

マットレス止めをボトム枠パイプに差し込みます。



2　固定する

取り付けたマットレス止めを矢印方向に回転させて
ボトム枠パイプに固定します。



STEP11　ヘッドボード・フットボードの取り付け

⚠注意

事故、破損、ケガをします。

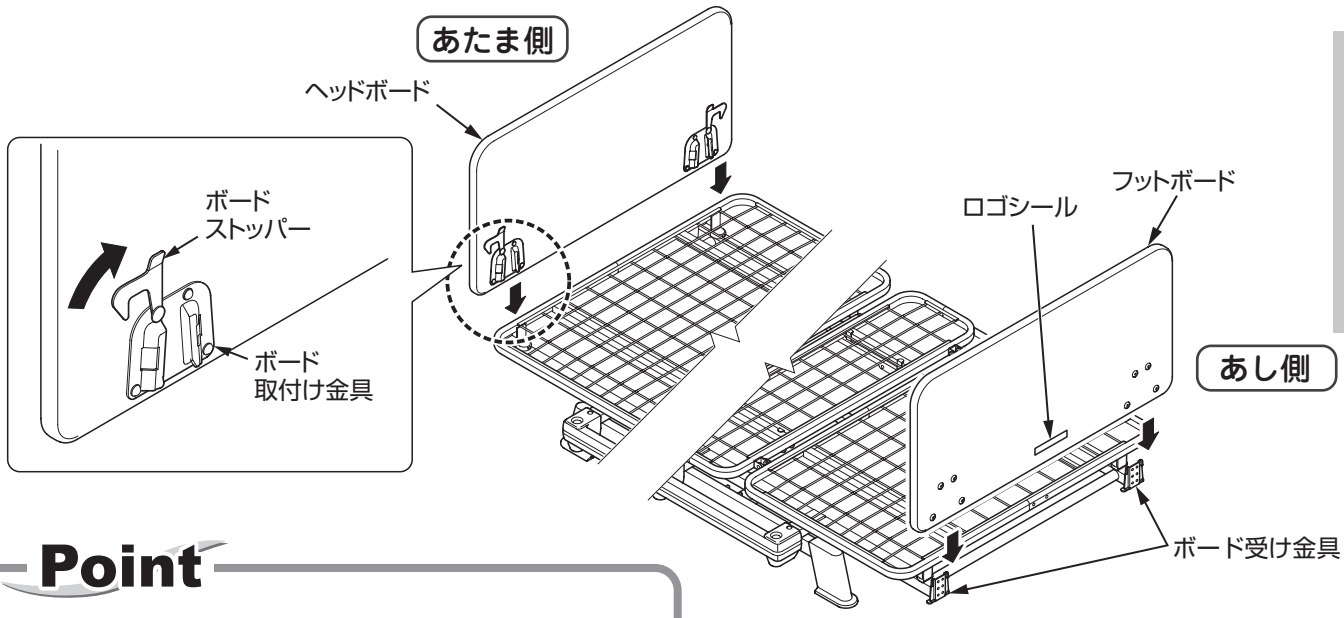
◆ヘッド・フットボードの取り付け、取り外しの際は、手や指などを挟まないように注意してください。

◆ヘッド・フットボードはしっかり最後まで差し込み、確実にボードストッパーで固定してください。不用意にボードが外れるおそれがあります。

◆ヘッド・フットボードには腰を掛けたり寄りかかったり無理な荷重をかけないでください。

1 ヘッド・フットボードを取り付ける

ボード取付け金具のボードストッパーを起こし、ボード受け金具にしっかり最後まで差し込みます。

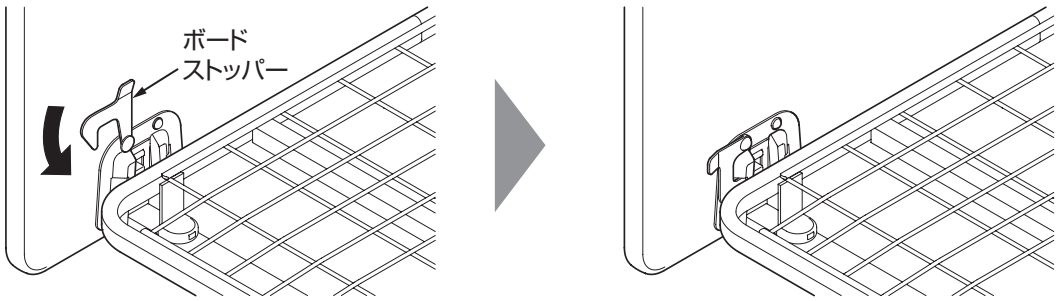


Point

●ロゴシールがあるほうがフットボードです。

2 ボードストッパーで固定する

ボードストッパーを矢印の向きに動かして固定します。



組み立て後の点検

ベッドの組み立てが終了したら、以下の項目にそって点検してください。

⚠ 警 告

事故、破損をします。

◆手元スイッチで操作しながら点検している際に、異常音や振動が生じた場合は、すぐにベッドの使用をやめて販売店または弊社カスタマーサポートへにご連絡ください。

	点 検 項 目	参照ページ	チェック
1	**モーターユニットの取り付け** ①モーターユニットはハイローベースユニットに確実にのっていますか？	p.17	☐
	②モーターユニットとハイローベースユニットのあたま側シールの向きは合っていますか？		☐
	③ピン A とスピードピンは確実に差し込まれていますか？		☐
2	**ハイローモーターの取り付け** ①ピンBとスピードピンは確実に差し込まれていますか？ ②ハイロー固定バンドはハイローモーターから外されていますか？	p.18	☐
3	**座ボトムの取り付け** ①ピンCとスピードピンは確実に差し込まれていますか？	p.20	☐
4	**背ボトムの取り付け** ①背ボトムの止めフックがボトム受け金具の固定穴に確実に差し込まれていますか？	p.21	☐
	②ピンCとスピードピンは確実に差し込まれていますか？		☐
5	**フロントユニットの取り付け** ①フロントユニットはモーターユニットに確実に取り付けられていますか？	p.22	☐
	②ピンCとスピードピンは確実に差し込まれていますか？		☐
6	**膝ボトム・脚ボトムの取り付け** ①膝ボトムの止めフックがボトム受け金具の固定穴に確実に差し込まれていますか？	p.23	☐
	②ピンCとスピードピンは確実に差し込まれていますか？		☐
7	**リアユニットの取り付け** ①リアユニットはモーターユニットに確実に取り付けられていますか？	p.24	☐
	②ピンCとスピードピンは確実に差し込まれていますか？		☐
8	**電源（ベッドと手元スイッチ）について** ①ベッドの電源プラグをコンセントに差し込んでください。このとき、手元スイッチのランプは点灯していますか？	p. 9 〜 p.11 ・ p.13	☐
	②ベッドの電源プラグをコンセントに差し込んでください。このとき、セーフティロックスイッチは解除していますか？	・ p.19	☐
9	**操作（作動時）について** ①手元スイッチのボタンを押して、あたま･あし（後付けモーターセット装着時、CC-2203 のみ）・たかさがスムーズに動作しますか？	p. 9 〜 p.11 ・ p.13	☐
	②モーターから異常音がしませんか？		
	③手元スイッチのボタンを押して背ボトムを上げた際、高さを昇降させた際に、周囲の家具などにあたりませんか？		☐

以上の項目を点検しても異常がある場合には、電源プラグをコンセントから抜き販売店、または弊社カスタマーサポートにご連絡ください。

オプション

⚠ 注意

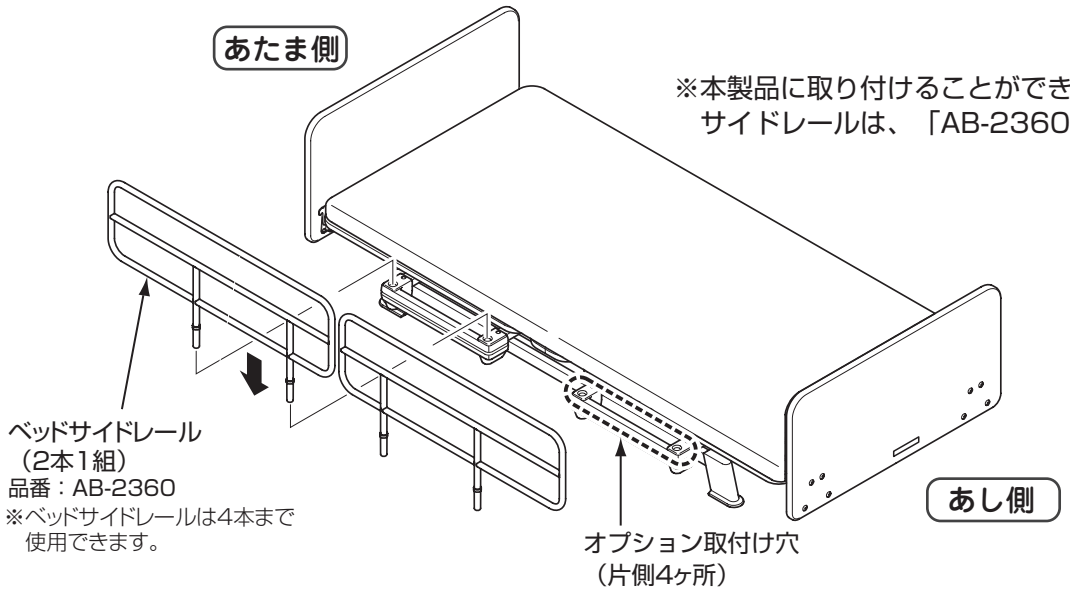
事故、破損をします。

◆このベッドには、必ず弊社製品のオプションを使用してください。
他社製品は、寸法などが適合しないだけでなく、ベッドに負担をかけて故障の原因になります。

◆各オプションに付属の取扱説明書も必ずお読みください。

ベッドサイドレール

ベッド両側のオプション取付け穴を利用してベッドサイドレールを使用できます。



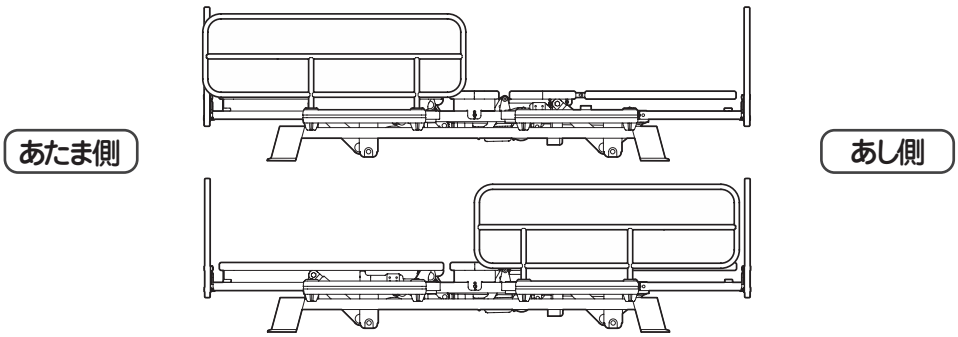
⚠ 警告

事故、破損、ケガをします。

◆ベッドサイドレールを取り付ける際は、オプション取り付け穴に異物が入っていないことを確認してください。
異物が入っていると確実に取り付けることができず、ベッドから転落したり、意図せぬすき間が発生したりして、身体の一部がはさまれてケガをするおそれがあります。

⚠ 注意

◆ベッドサイドレールには方向性があります。図のように正しい向きでご使用ください。



マットレス

シングルウェーブマットレス

MB-1600	● 腰をかけたとき、手をついたときの沈み込みが少なく、安定性と体圧分散性に優れています。 ● 独自のシングルウェーブ構造によりベッドの動きに合わせてしなやかに曲がります。 ● 体圧を維持する適度な硬さと長時間の使用にもへたりがありません。 ● 通気性、通水性があるので、カビや雑菌などが繁殖しにくく、清潔さを保てます。 ● 上下、裏表の区別はありません。

⚠ 注意

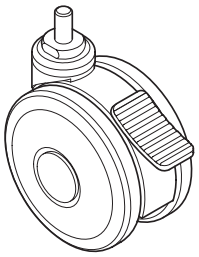
事故、破損をします。

◆このベッドには、必ず弊社製のマットレスを組み合わせてご使用ください。
他社製のマットレスは、寸法や折れ曲がりの点で、適合しないだけでなく、ベッドに負担をかけ故障の原因になります。

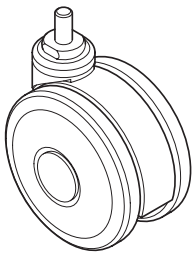
キャスター

●キャスターは、ストッパー付きとなしの2種類があります。
●本製品に取り付けることができるキャスターは、K-126（7.5cm）とK-127（10cm）です。

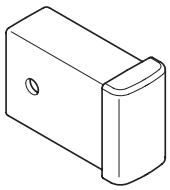
部品の確認



キャスター
ストッパー付き(2個)



キャスター
ストッパーなし(2個)



キャップ(4個)

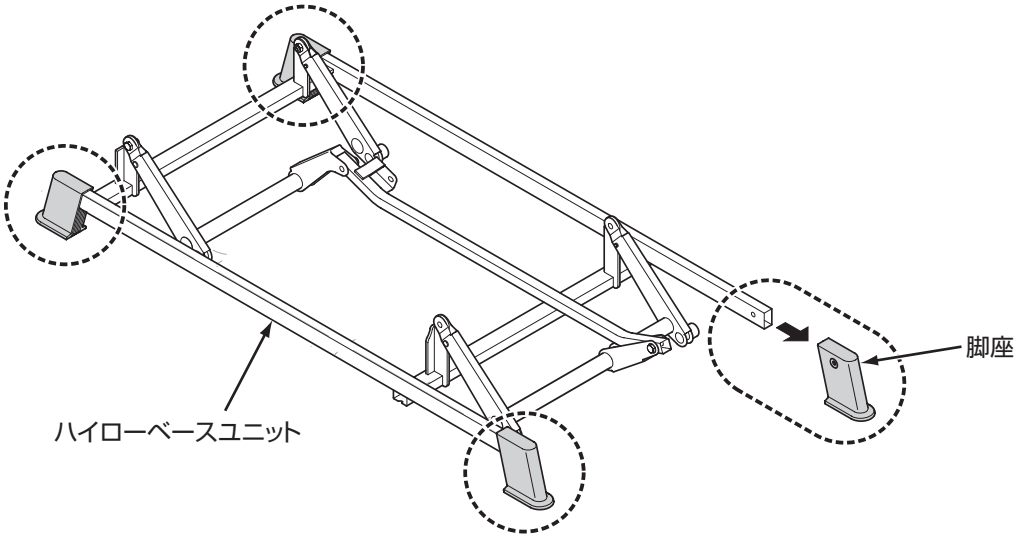
スプリングワッシャー(4個)

ワッシャー(4個)

取り付けかた

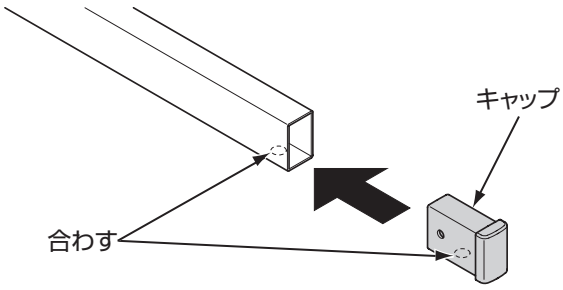
1 ハイローベースユニットの脚座を取り外す

取り外し方かたは 40 ページ を参照してください。



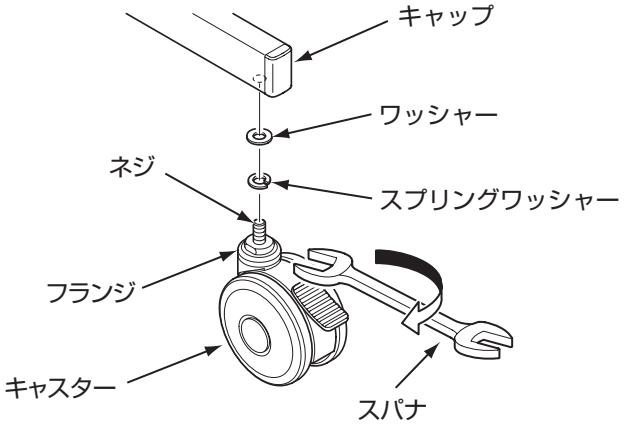
2 キャップを差し込む

ハイローベースユニットの先端の穴とキャップの穴位置を合わせて差し込んでください。
（4ヵ所）



3 キャスターを取り付ける

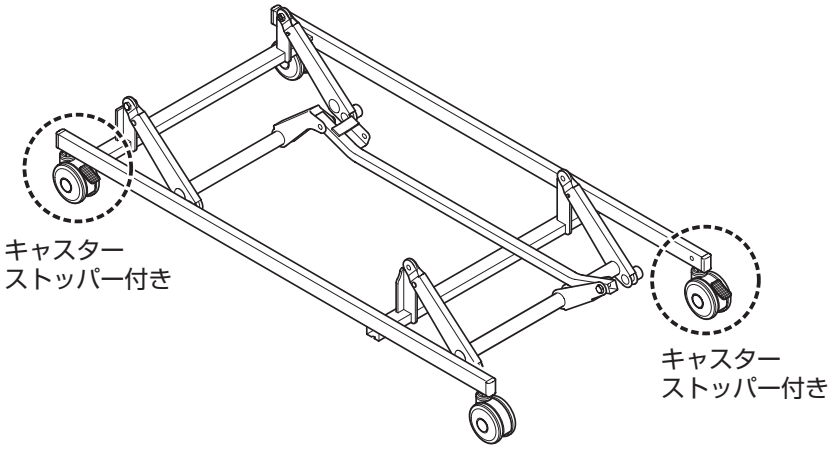
キャスターのネジにワッシャーとスプリングワッシャーを入れて、キャスターを取り付けてください。適合するサイズのスパナを使用して、フランジを締め付けてください。
（4ヵ所）



スパナ適合サイズ
K-126=17mm
K-127=21mm
※21mm は薄口スパナをご使用ください。

4 キャスターを取り付ける

ストッパー付きと無しのキャスターが対角になるように取り付けてください。



Point

●ベッドを組立てる際には、キャスターを固定状態にしてからおこなってください。

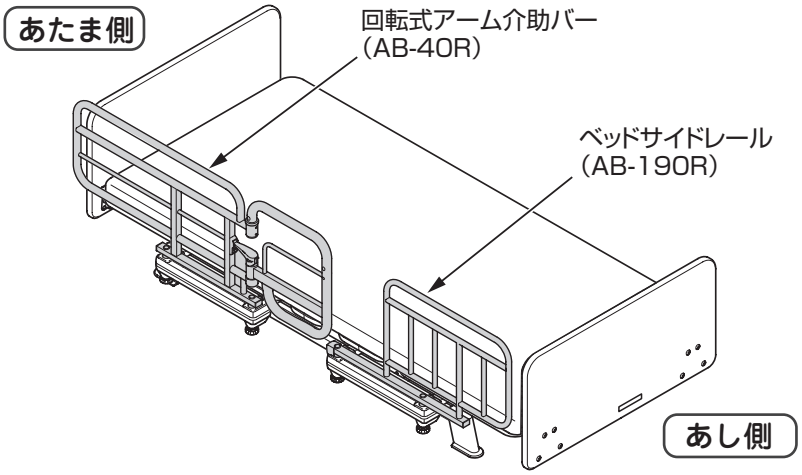
⚠ 警 告

事故、破損、ケガをします。

◆確実に締め付けられていないとキャスターの脱落などによりベッドがバランスを崩し、思わぬケガをするおそれがあります。

回転式アーム介助バー

ベッド両側のオプション取付け穴を利用して回転式アーム介助バー（AB-40R）を使用できます。回転式アーム介助バー（AB-40R）は、ベッドからの起き上がりや立ち上がりなどの動作を補助するのに役立ちます。



回転式アーム介助バー（AB-40R）と組み合わせて使用できるベッドサイドレールは、AB-190Rです。

※取付け位置や使用方法は、各オプションに付属の取扱説明書をお読みください。

⚠ 警 告

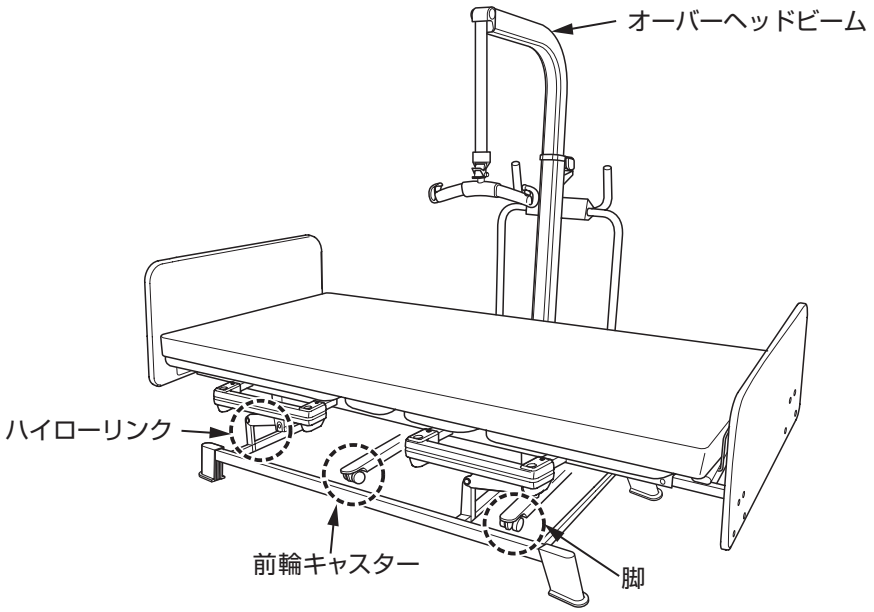
事故、破損、ケガをします。

◆グリップは、必ず固定して使用してください。転倒、はさまれる危険があります。

◆ベッドに取り付ける際は、固定ノブで確実に固定してください。

介護リフト使用時のご注意

下図の床走行式電動介護リフトが使用できます。走行訓練用万能リフト「ゴルボ7007 Low Base」の使用をおすすめします。



⚠ 警 告

事故、破損、ケガをします。

◆床走行式電動介護リフトに付属の取扱説明書も必ずお読みください。

◆ベッドを上げるときや、オーバーヘッドビームを下げるときは、十分注意してください。ベッドとブームの間にはさまれてケガをするおそれがあります。

◆ベッドを下げるときは、ハイローリンクに脚や前輪キャスターをはさまないように注意してください。ケガや破損のおそれがあります。

分解

ベッドの分解は販売店にご依頼されることをお勧めしますが、ご自分でおこなう場合は以下の手順でおこなってください。

分解の前に

1.ベッドに取り付けているオプション（ベッドサイドレールや回転式アーム介助バーなど）をベッドから取り外して、寝具・マットレスなどをベッドから降ろします。

2.電源プラグをコンセントに差し込みます。

3.セーフティロックスイッチを操作可能に切り替えてください。

4.ベッドの高さを一番上まで上げます。

5.背ボトムと膝ボトムを一番最低位置まで下げます。

6.電源プラグをコンセントから抜きます。

⚠注意

事故、破損、ケガをします。

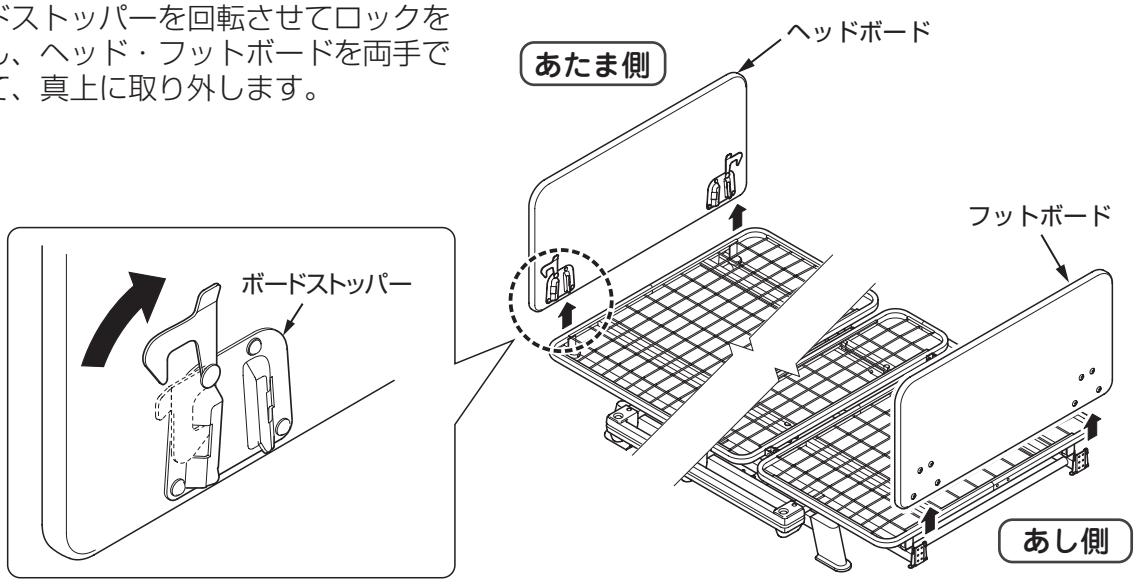
◆キャスター（K-126またはK-127）をご使用の場合は、必ずキャスターを固定状態にしてから作業をおこなってください。固定状態になっていない場合、分解作業中にベッドが動いておもわぬケガをするおそれがあります。

分解のしかた

STEP1　ヘッドボード・フットボードの取り外し

1 ヘッド・フットボードを取り外す

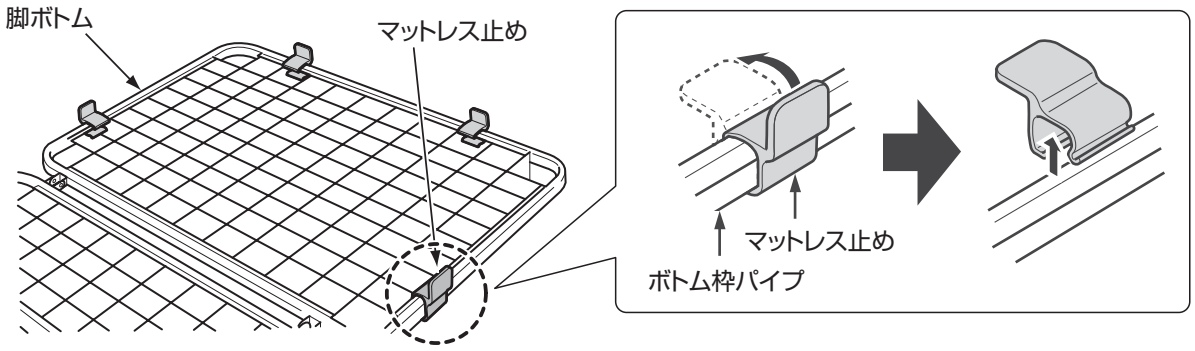
ボードストッパーを回転させてロックを解除し、ヘッド・フットボードを両手で持って、真上に取り外します。



STEP2　マットレス止めの取り外し

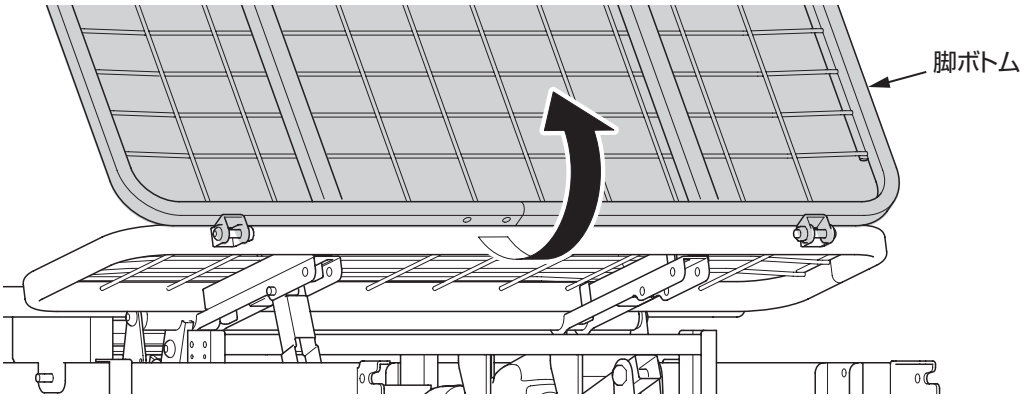
1 取り外す

マットレス止めをベッドの内側に倒して、ボトム枠パイプより取り外します。



STEP3　リアユニットの取り外し

1 脚ボトムを図のように持ち上げてください。



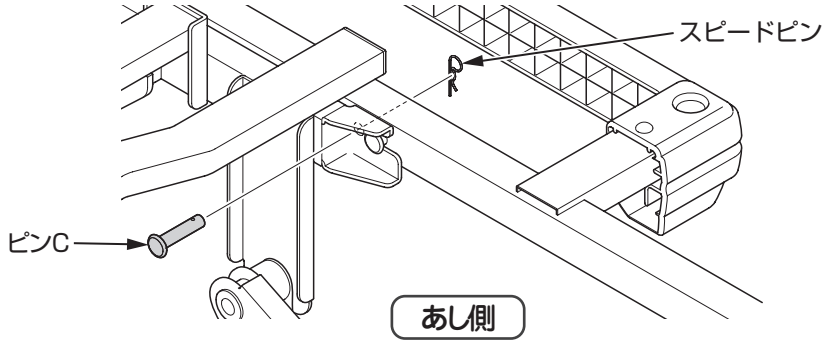
⚠ 注 意

事故、破損、ケガをします。

◆脚ボトムの落下に注意してください。

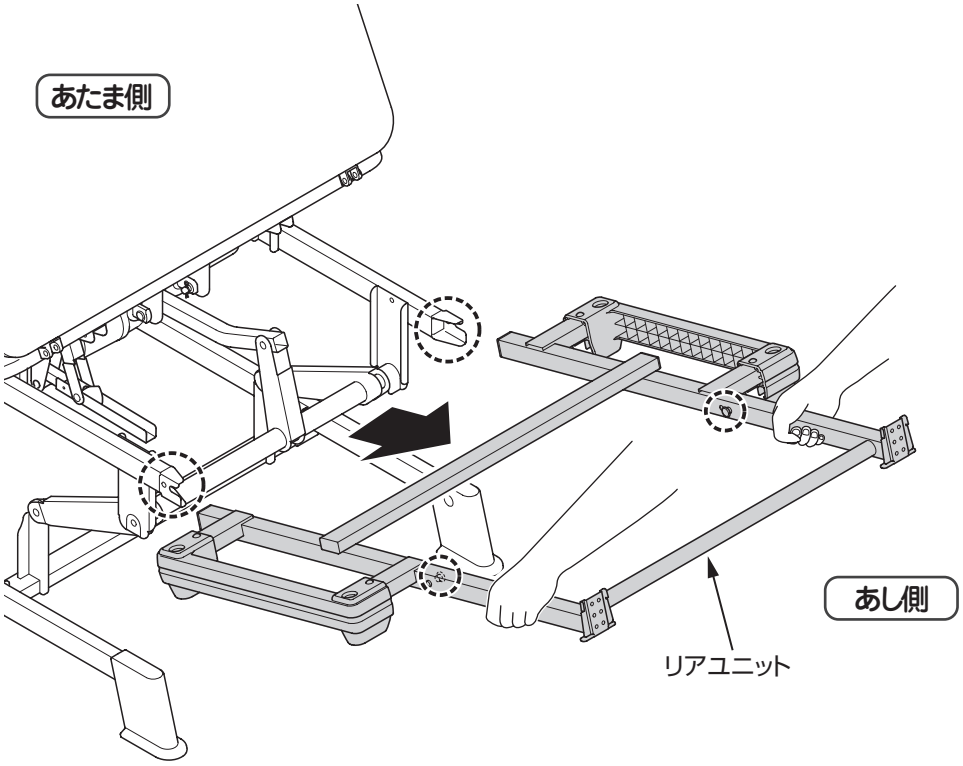
2 ピンを取り外す

スピードピンを抜き、ピンCを取り外します。（左右２ヶ所）



3 リアユニットを取り外す

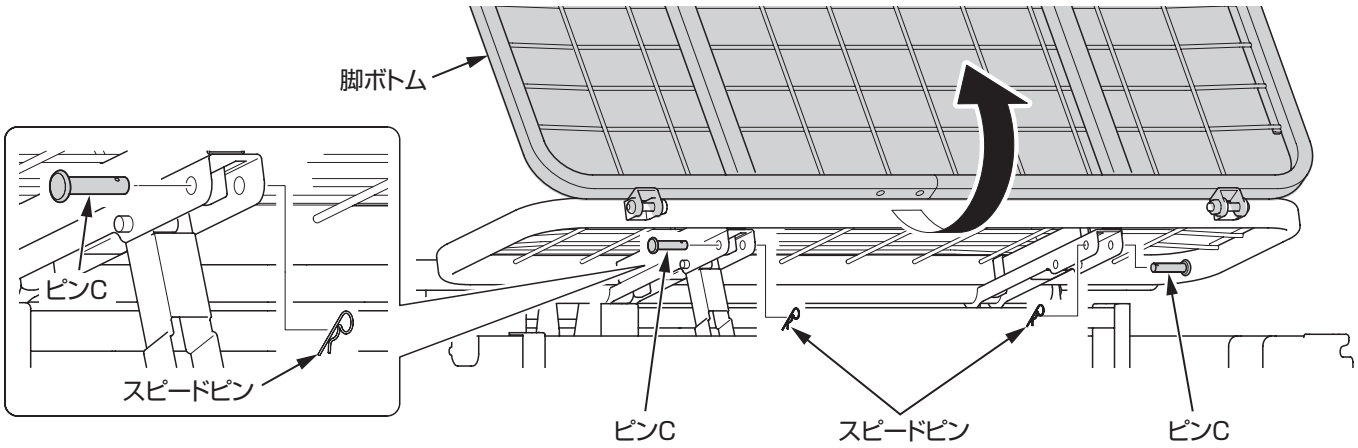
リアユニットを両手でしっかり持って矢印の向きに取り外します。



STEP4　膝ボトム・脚ボトムの取り外し

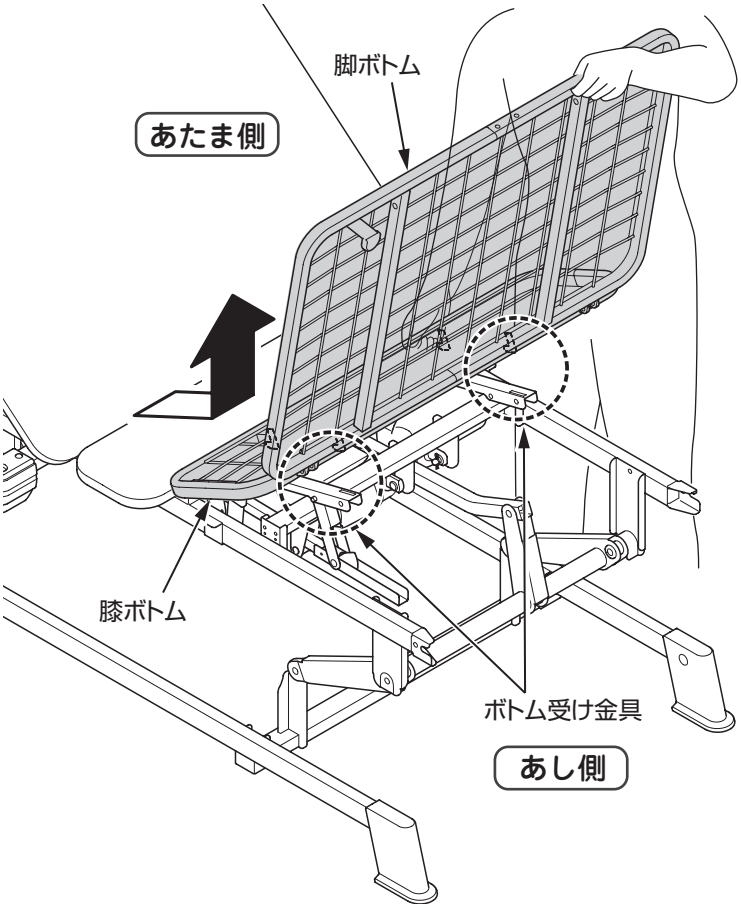
1 ピンを取り外す

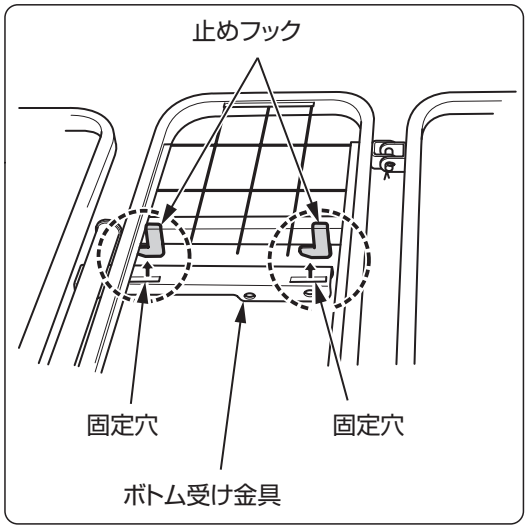
スピードピンを抜き、ピンCを取り外します。（左右2ヶ所）



2 膝ボトムと脚ボトムを取り外す

矢印の方向にボトム全体をスライドさせて膝ボトムの止めフックをボトム受け金具の固定穴から取り外します。（左右４ヶ所）

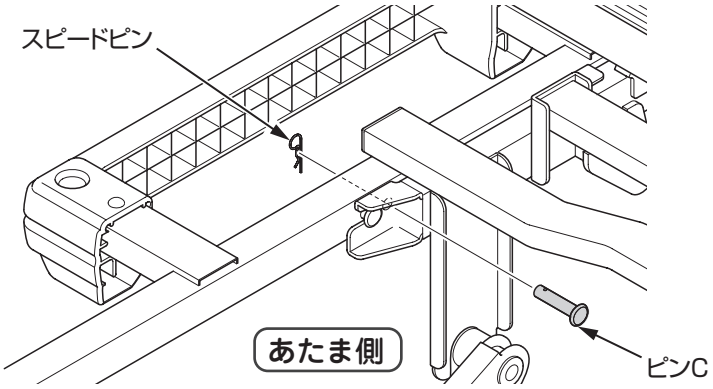




STEP5　フロントユニットの取り外し

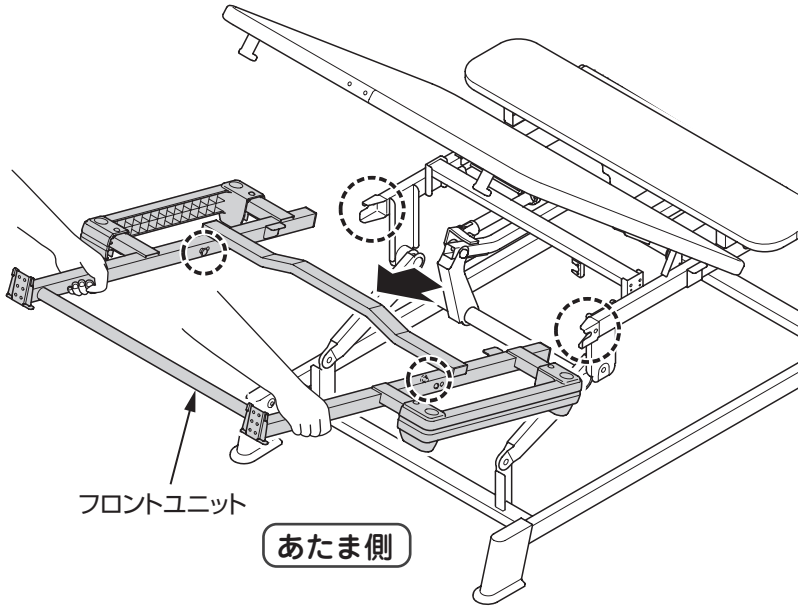
1 ピンを取り外す

スピードピンを抜き、ピンCを取り外します。（左右２ヶ所）



2 フロントユニットを取り外す

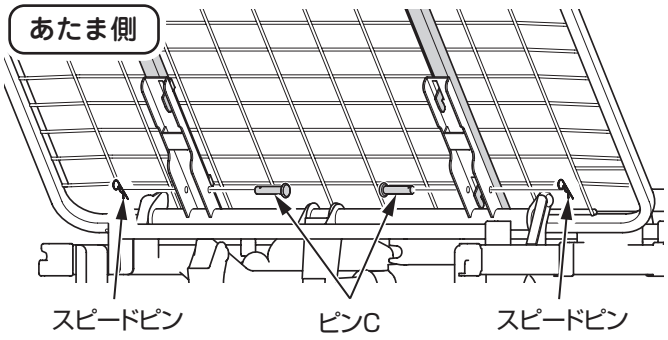
フロントユニットを図のように持ち、矢印の向きに取り外します。



STEP6　背ボトムの取り外し

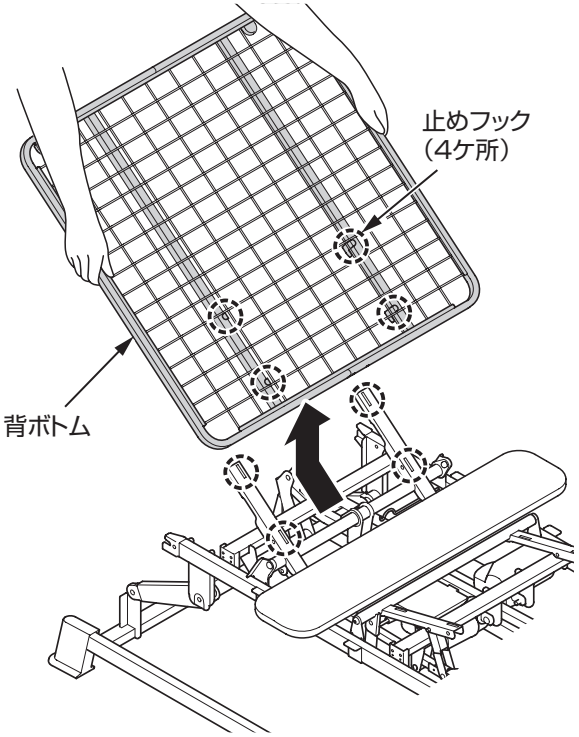
1 ピンを取り外す

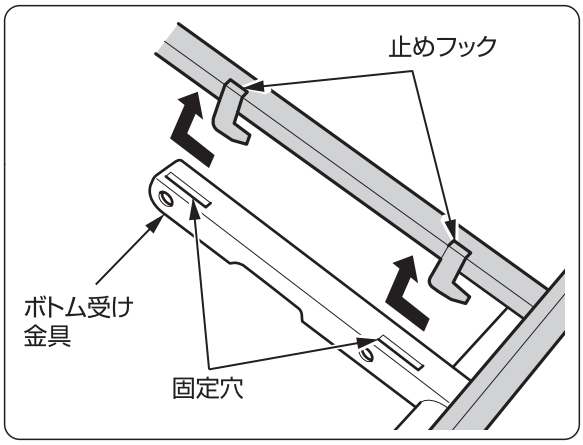
スピードピンを抜き、ピンCを取り外します。（左右２ヶ所）



2 背ボトムを取り外す

矢印の方向に背ボトム全体をスライドさせて、背ボトムの止めフックをボトム受けフレームの固定穴から取り外します。（左右４ヶ所）



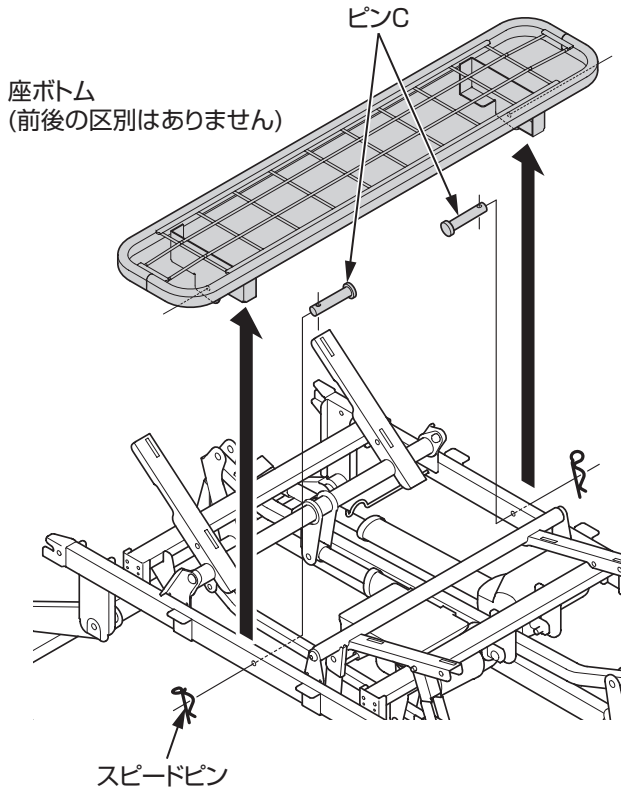


STEP7　座ボトムの取り外し

1 座ボトムを取り外す

1. スピードピンを抜き、ピンCを取り外します。（左右２ヶ所）

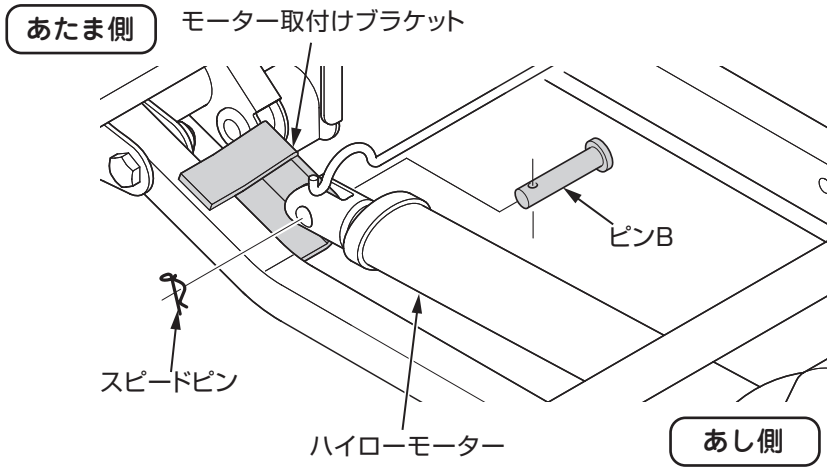
2. 座ボトムを矢印の向きに取り外します。



STEP8　ハイローモーターの取り外し

1 モーター先端を取り外す

1. スピードピンを抜いて、ピンBを取り外します。
2. モーター先端をモーター取付けブラケットから取り外します。



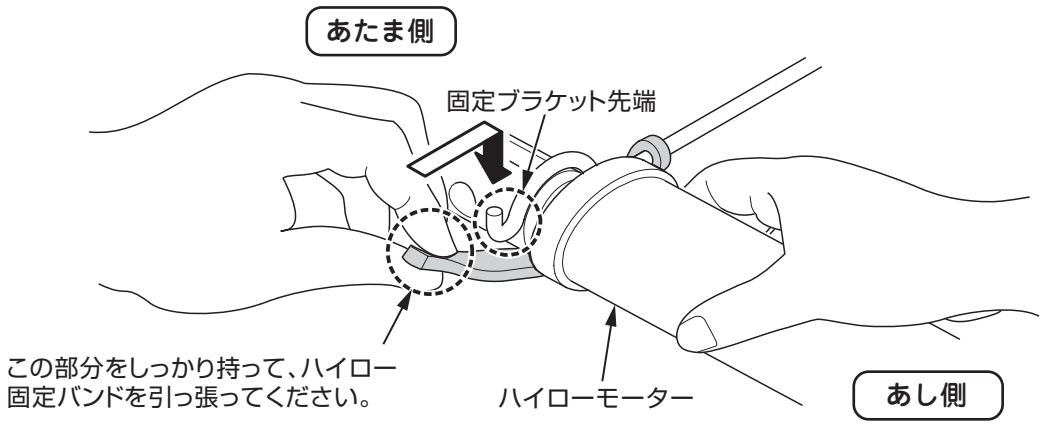
⚠ 注意

事故、破損をします。

◆ハイローモーターが脱落しないように必ずハイローモーターを手で支えてください。

2 ハイロー固定バンドで固定する

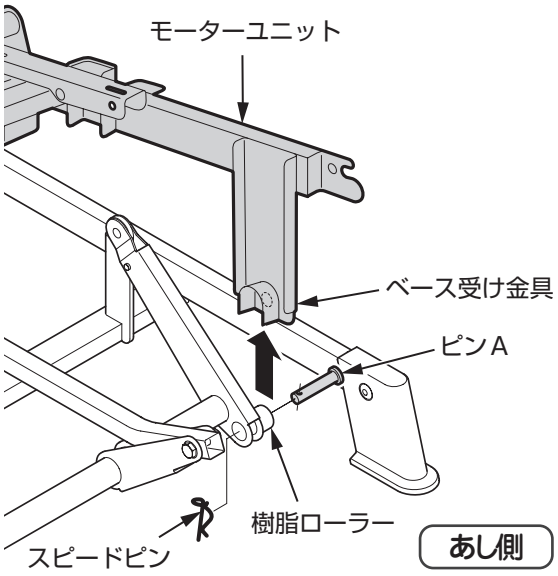
ハイロー固定バンドを矢印の方向に引っ張って固定ブラケットの先端に引っ掛けます。

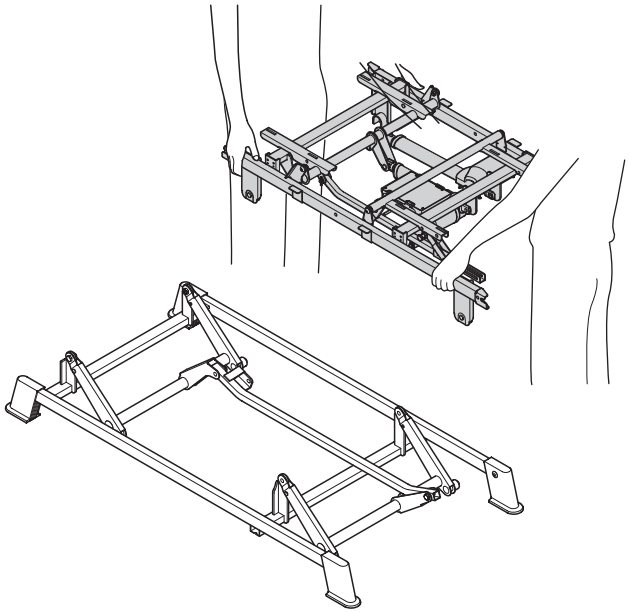


STEP9　モーターユニットの取り外し

1 モーターユニットを取り外す

1. スピードピンを抜き、ピンAを取り外します。（４ヶ所）
2. モーターユニットを2人以上で持ち上げ、取り外します。



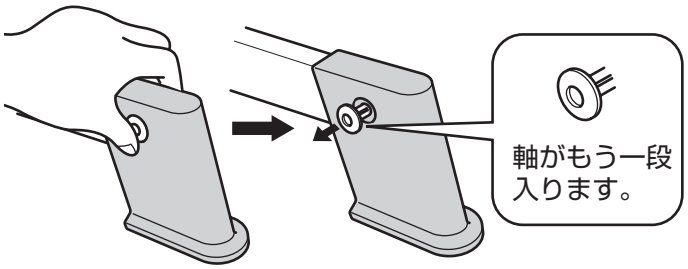


STEP10　脚座の取り外し(脚座を取り外して保管する場合)

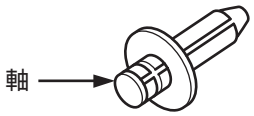
1 プッシュリベットの固定を解除する（4ヶ所）

カチッと音がするまで軸を、さらに押し込みます。

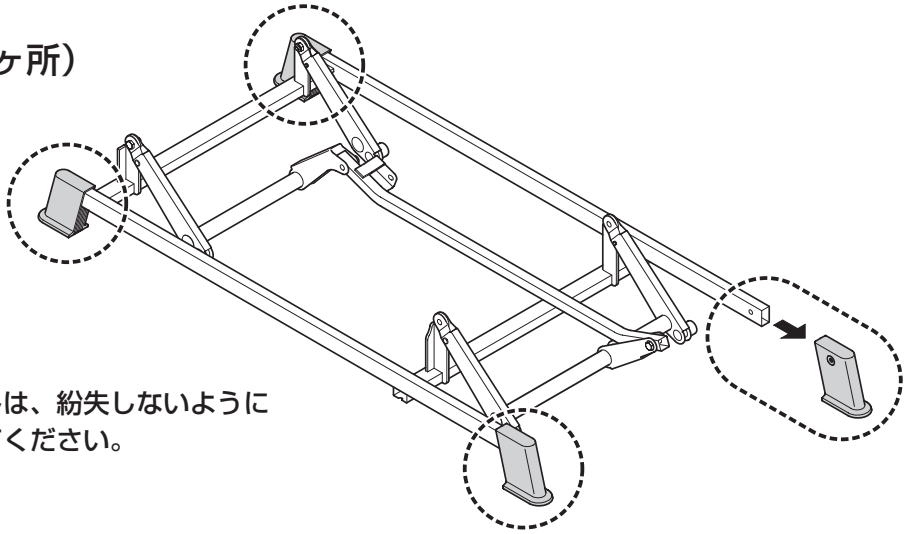
※指で押し込めない場合は、押し込みすぎないように注意してドライバーなどで軽く押し込んでください。



※再度取り付ける際は、下図のように軸を出してください。



2 脚座を取り外す（4ヶ所）



※脚座とプッシュリベットは、紛失しないように袋などに入れて保管してください。

付属部品と分解したユニットの保管

ベッドを分解した後、本取扱説明書および下記の組立付属品、その他の部品を袋などに入れて保管してください。

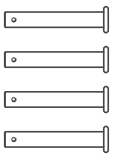
Point

●梱包するときは、取扱説明書、付属品などが梱包されていることを見やすいところに明記しておくと、後日開梱するときに便利です。

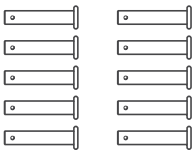
●取扱説明書（1 冊）

●組立て部品

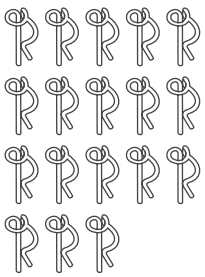
ピン A（4 本）



ピンC（10 本）



スピードピン（15 本・予備 3 本）

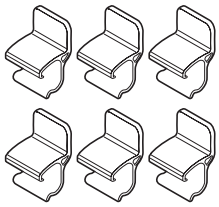


ピンB（1 本）

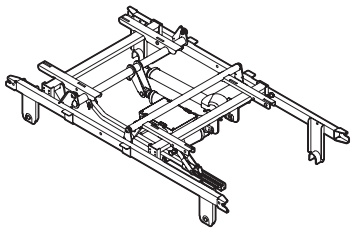
プッシュリベット（4 本）

●付属部品

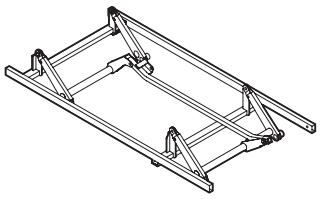
マットレス止め（6 個）



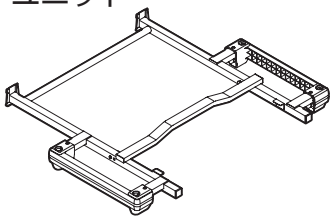
●モーターユニット



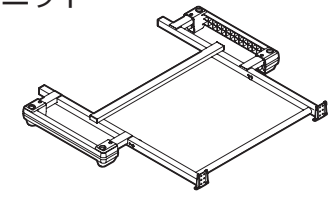
●ハイローベースユニット



●フロントユニット



●リアユニット

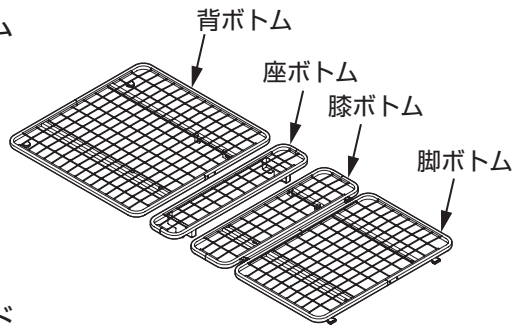


お願い

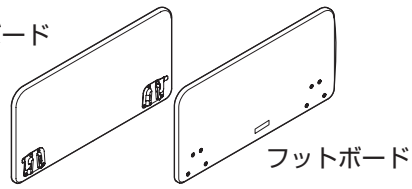
事故、破損の原因となります。

◆手元スイッチ、電源コードは束ねてモーターユニットに固定して保管してください。

●ボトム



●ボード



お願い

キズや破損の原因となります。

◆ボードを重ねるときは、金具でボードが傷つかないように当てものをしてください。

こんなときは

日常のお手入れ

- 拭き掃除をする場合は柔らかい布を使用し、水で薄めた中性洗剤に浸してよく絞っておこなってください。
- その後、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- 洗浄液を使用する場合は下記の薬品を指定の濃度に薄めてご使用ください。

塩化ベンザルコニウム液(オスバン)：0.05%～0.2%　　クロルヘキシジン液(ヒビデン)：0.05%
塩化ベンゼトニウム液(ハイアミン)：0.05%～0.2%

⚠ 警 告

事故、破損、ケガをします。

◆事故を防止するため、必ず電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。

必ず水で薄めた中性洗剤をご使用ください。

◆揮発性のもの(シンナー、アルコール、ベンジン、アセトン、クレゾール)などは絶対に使用しないこと。本体が変色したり、塗装がはがれたりします。

故障かな？と思ったら

- 故障でない場合がありますので、修理を依頼される前に以下の項目をチェックしてください。
それでも直らない場合は、ベッドの使用を中止して、電源プラグをコンセントから抜き販売店に修理をご依頼ください。

症　状	チェック	処　置
手元スイッチの電源ランプが消えている	コンセントに電源はきていますか？	コンセントに他の電気機器のプラグを差し込んで、電気がきているか確認してください。
	電源プラグはコンセントに差し込まれていますか？	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	手元スイッチのコネクターが電源ボックスから外れていませんか?	手元スイッチのコネクターを差し込んでください。
手元スイッチの操作禁止ランプが点灯しない	セーフティロックスイッチで操作不可にしていませんか？	セーフティロックスイッチで操作可にしてください。
	—	「手元スイッチの電源ランプが消えている」の項目を確認してください。
電源プラグが差し込まれているが、手元スイッチを押してもベッドが動かない	ベッド周辺、可動部に障害物がありませんか？	障害物を取り除いてください。
ベッドの移動ができない	キャスターがロックされていませんか？	キャスターのロックを解除してください。
ボードが外れない	ボードのストッパーレバーがロックされていませんか？	ボードストッパーをフリーの状態にしてください。33 ページ 参照

緊急時の背下げ操作（停電・故障時などの対応）

電動在宅ケアベッド カメリアは、背ボトムが上がっている状態で停電などの緊急時に背ボトムが下げられなくなった場合に手動で背ボトムを下げることができます。

⚠ 注意

事故、破損、ケガをします。

◆必ず2人以上で作業をおこなってください。

◆必ず背ボトムを手で支えて作業をおこなってください。
荷重がすべて背ボトムにかかり危険です。

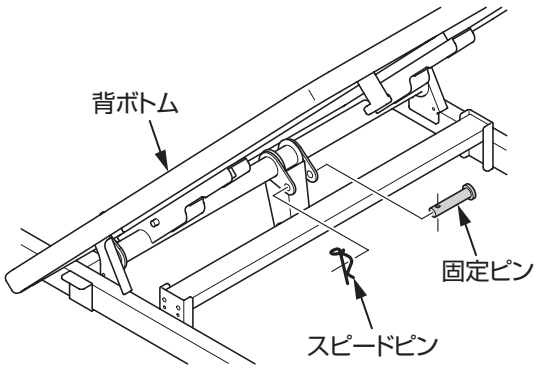
◆スピードピンを外す際は、ラジオペンチやプライヤーを使用してください。

背下げの方法

1. 電源プラグをコンセントから抜く
2. 療養されている方と寝具をベッドから降ろす
3. 作業をしやすくするため、ヘッドボードを取り外す 33 ページ 参照
4. 背ボトムが落下しないように手で支える
5. 図の固定ピンとスピードピンを取り外す

Point

●外した固定ピン、スピードピンは、背ボトムを元に戻す際に使用します。紛失しないように保管してください。



6. 背ボトムを手で支えながら下ろす
7. ヘッドボードを取り付け、寝具、療養されている方をベッドに戻す 26 ページ 参照

もどしかた

電力が回復したら以下の手順でベッドをもとの状態に戻してください。

1. 電源プラグをコンセントから抜く
2. 療養されている方と寝具をベッドから降ろす
3. 作業をしやすくするため、ヘッドボードを取り外す 33 ページ 参照
4. 背ボトムを手で支えて上に上げる
5. 固定ピンとスピードピンを取り付ける
6. 背ボトムを手で支えながら下ろす
7. ヘッドボードを取り付け、寝具、療養されている方をベッドに戻す 26 ページ 参照

保管と移動

保管について

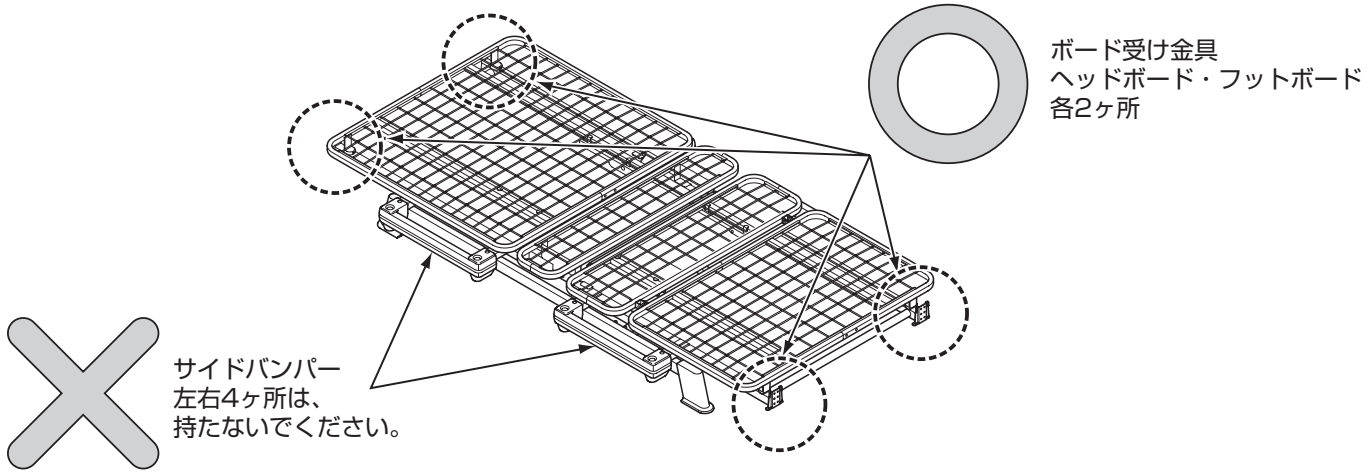
組み立てた状態で保管する場合

- ベッドの高さを最低位置まで下ろしてください。
- 背ボトム、膝ボトムを水平の位置まで下ろしてください
- ベッドの上にはマットレス以外のものを載せないでください。
- マットレスの上には何も載せないでください。（マットレスの上に物を乗せたままにしますとマットレスが変形する場合がありますのでおやめください。）
- 必ず電源プラグをコンセントから抜き、電源コードは破損しないよう束ねてください。
- 立て掛けたり、横倒しにしないでください。
- 高温、多湿、ホコリの多い場所での保管は避けてください。
- 取扱説明書は大切に保管してください。
- お使いになる場合は、「組み立て後の点検」27 ページ に従って点検してください。

移動について

組み立てた状態で移動する場合

- 背中、腰を痛めないように2人以上で運んでください。
- ベッドで療養されている方は移動していただき、寝具、マットレス、オプション（回転式アーム介助バー、ベッドサイドレールなど）は取り外してください。
- 移動の際は、ヘッドボード・フットボードを外して、ヘッドボード・フットボードの受け金具を両手でしっかり持っておこなってください。
- 危険ですのでヘッドボード・フットボード、サイドバンパーなどは持たないでください。



- 電源コード、手元スイッチ、電源プラグは、移動の前にある程度束ねてキズなどがつかないようにベッドに固定してください。

分解して保管または移動する場合

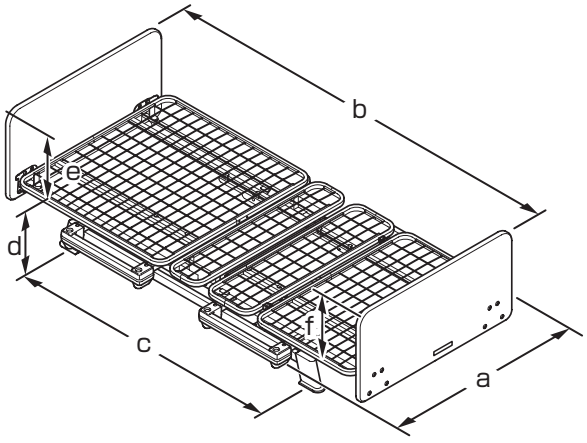
ベッドの分解は販売店、または弊社カスタマーサポートにご依頼されることをお勧めします。

仕　様

品名			カメリア	
品番			CC-2202（2 モーター）	CC-2203（3 モーター）
ベッド本体	サイズ（幅）		シングルサイズ	
	タイプ（長さ）		レギュラー	
	寸法（mm）	a：全幅	100cm	
		b：全長	206cm	
		c：脚座中心長さ	104.7cm	
		d：ボトム高さ	26 ～ 63cm（ゆかからボトム上面まで）	
		e：ヘッドボード高さ	32 ～ 95cm（ボトム上面からヘッドボード上面まで）	
		f：フットボード高さ	32 ～ 95cm（ボトム上面からヘッドボード上面まで）	
		ボトム幅	89cm	
		ボトム長さ	195cm	
	総重量		69.5kg	71kg
	モーター数		2 モーター	3 モーター
	操作		手元スイッチ、ボタン操作	
	主な材質	ハイローベースユニット	スチール製・抗菌粉体塗装・ 合成樹脂成形品塗装色：ホワイトアイボリー	
		モーターユニット		
		フロント・リアユニット		
		各ボトム		
		ヘッド・フットボード	木製：MDF、木目化粧シート（抗菌仕様）、PVC	
	最大使用者体重		138kg	
	安全使用荷重		174kg（1700N）※1	
	最大マットレス厚		9cm※2	
	背上げ（脚連動）	傾斜角度	背ボトム：0 ～ 70 度、膝ボトム：0 ～ 15 度	
		昇降時間	約 20 秒	
	膝上げ	傾斜角度	ー	0 ～ 45 度
		昇降時間	ー	約 14 秒
	高さ調節	昇降距離	約 37cm	
		昇降時間	約 36 秒	
電装品	モーター形式		リニアアクチュエータ（DC モーター 24V）	
	電源電圧、周波数		AC100V　50/60Hz	
	消費電力（最大）		背上げ：約 90W 以下、膝上げ：約 65W 以下、高さ調節：約 110W 以下	
	待機電力		約 3W 以下	
	連続使用時間		2 分（間欠 18 分）	

※1　最大使用者体重とマットレスやオプションを含めた重さ
※2　サイドレール使用時に適合する最大マットレス厚

■各部の寸法



※a～f の寸法は、上記表に記載しています。

	項　目	箇　　所
a	全幅	最大外径寸法（オプション受け収納時）
b	全長	最大外径寸法
c	脚座間の長さ	脚座の中心間長さ
d	ボトムの高さ	ゆか～ボトム間（最低高さ～最高高さ）
e	ヘッドボード高さ	ボトム上面～ヘッドボード上端
f	フットボード高さ	ボトム上面～フットボード上端

保証とアフターサービス

修理を依頼されるとき

故障した際は、お買い上げ販売店もしくは弊社カスタマーサポートまでご連絡ください。

■連絡していただきたい内容

●品名、品番　●故障・異常の内容(できるだけ詳しく)　●お買い上げ日　●お名前、ご住所、電話番号

■修理を依頼される前に

修理を依頼される前に、今一度この取扱説明書をよくお読みください。それでも異常のある場合は、お買い上げ販売店もしくは弊社カスタマーサポートにご相談ください。

■保証期間内は

保証書の記載内容に基づき無償で修理いたします。ただし、保証期間内でも修理が有償になる場合があります。詳しくは、下記の保証書をご覧ください。

アフターサービスについてご不明な点

お買い上げの販売店もしくは弊社カスタマーサポートまでお問い合わせください。

保証書

このベッドには保証書を添付しています。「販売店・購入日」などの記入をお確かめになり、記載内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

保 証 書

品名／品番	電動在宅ケアベッド カメリア　CC-2200	保証期間	お買い上げより1ヵ年間
お客様	お名前 〒 住所 TEL	販売店	お買い上げ日　　年　月　日 販売店名 住所 TEL

1.1年間の保証期間に取扱説明書に従った正常な使用状況で故障した場合には、無償修理致します。
2.保証期間内でも次の場合は有償になります。
①使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および破損がある場合。
②お買い上げ後の落下による事故および破損。
③火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、異常電圧による故障および破損。
④本書の提示がないもの。
⑤本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店の記入がない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
3.本書は国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
4.本書は再発行いたしませんので紛失しないようご注意ください。

※販売店方へのお願い…　お買い上げ日および貴店名、住所、電話番号を記入、捺印したうえでお客様にお渡しください。

修理、お取り扱い・お手入れなどのご相談は、
まずお買い上げの販売店、レンタル取次店へお申し付けください。

10月1日は 福祉用具の日

カスタマーサポートお問い合わせ窓口・・・ FreeCall 0120-20-1001
（無料　ツーワ）

シーホネンス株式会社

〒537-0001　大阪市東成区深江北3-10-17

【カスタマーサポート　お問い合わせ窓口】

FreeCall 0120-20-1001

©2010　SEAHONENCE INC.（シーホネンス株式会社）All Rights Reserved.

2010.09.01